【新収蔵資料紹介】| 奥州通道 产中記.

鯵ケ

沢、

深浦

大間越を通り、

領境を越えて秋

滝 太 本 田 敦・本田伸

for the Mandatory Alternate Residence Our New Document: "Oshu-Dori Dochuki" The Hirosaki-Tsugaru Clan's Travel Memorandum

TAKIMOTO Atsudhi, HONDA Shin OTAHARA Keiko, SATO Yoshinobu,

. ワ ド .. 弘前藩、 参勤交代

Oはじめに

平成四年度から、 の慣例等について書き連ねたものであ 所二ツ目に至る道筋の地理 本丁一丁目 「奥州通道中記」 当館では、 Iから、 本県関連資料を収集するため、 資料購入事業を行っている。 はその一つで、弘前城下 弘前藩上屋敷のある江戸本 的 情報と、 道 中で Ó

前藩 弘前市立図書館津軽家文書) 江 戸時代前期、 津軽家の参勤交代の通路は、 - を採っ た。 寛文四年 (「弘前藩庁日 (一六六四) 弘前から西へ出て 記 日本海沿い 御 国 まで弘 日 記 の

出

れた 里塚の位置、 料はこの る必要が生じ、 て森岡から羽州街道を利用するルートに変更さ 大鰐、 田 るもの 資料館蔵津軽家文書、請求記号二二B・三三五 西 森岡を経由して羽州街道に合流する 領八森に出る西浜街道である。 (一六六五) .海岸の道路は難所が多いことから、 (同前)。 の、 碇ヶ関を経由し、 「御登御道中記」と、 のような道中記が作成された。 多くの部分で内容が重なる。 船渡の有無などに若干の違 そのため、 には、 「御登御道中記」 弘前から南下して石川、 大館、 道筋の情報を整理 里程の数字、 綴子、 ここから能代 (国文学研究 飛根を経 寛文五 本資 は あ す

〇本資料の構成と概要

(番号は当館 本資料の構成と概要は、 が付したものである)。 以下の通 ŋ である

記 で示された一里塚に相当するものだろう。 記号が列挙されてい 0 の中 塚印」「舟渡」「川渡」「国境」「領境」 御登御道中記」 ・で使用される。 て、 冒 頭 いずれも の の 塚 印附 印 に は、 道 の 前 中

小 坂通諸家看板

の着用する印袢纏の背中の紋章等 する紋章様の ^「看板」 渞 第三巻)のことであろう。 |中の沿道十 」 は、 「看板」 大名家や本陣の奉公人・使用人 一ヶ所の地名と、 が列挙される。 それらに対応 (『国史大辞

Ξ 道中記

ことを窺わせる。 同類の資料を転写 冒 頭に「朱書・点羽付ケハ御前 とあるように、 抜き書きしたものであ 本資料が、 藩が所有する 帳より書記

れは、 五年 至らなかったが、参勤交代は軍役の一環であり、 寧親が急きょ帰国ル 儀兵衛のことであろう。 とって大きなリスクを負わされた事件だった。 変更は本来、 話を聞かせた人物である。 吉田松陰の『東北遊日記』に出てくる庄屋山 本陣山内儀兵衛」とある。 であろう。 項目ごとに朱書された人名は、 (一八二一) に同地で起きた相馬大作事件 (一八五八) 嘉永五年 例えば、 幕府 (一八五三) 頃と推定されることから、 の 1 秋田領大館の白沢には 届出を要する。 トを変更したため大事に 山内は松陰に、 弘前藩九代藩主津軽 本資料の成立が安政 に同地を通過した 宿 の 津軽家に 文政四 提供 御 者

里程 る町 ついては、 の の さ れ、 ほ 御 や川 名が 供 れ さらに、 ぞれ 達 下町などの大場では、 つ慣例 城 列挙される。 他 宗旨の記載がある。 、 の 一 橋・渡場・追分道・坂・休憩場 や寺社などの情報 つ書きに 各地の領主名や石高 が記され 名などの 地 る。 名の は、 地 名が掲げら 城下 次に その経路 主要地点まで b あ る。 家作 町 -数が 寺院 道 上 れ 宿 中 に 場 て 所 の で 記

七七、 大学国 ろ、 尻 駄賃表」(同) に 元 津 ح 軽 ついては天保十四年 /一八六四) 人夫役) もあり、 領 場については 賃が本荷 羽 致する箇所 名著出版) 史研究会編 分の駄賃については、文久四年 州 街道駄賃表」を比較してみたとこ と記され、 そうでない箇所もある。 五四文・ などが参考になる。 「御領分中道程駄賃定」 が、 「本」「カ」「夫」(本荷、 『津軽史事典』 (例えば、 羽州 軽尻三六文・ (一八四三) 駄賃が示されている。 街 川 道 和野 沿 所収 試みに本資 ζ) 羽州 夫役二九 の 神宮寺 他 (元治 弘 一九 街 領 軽 道 前 分

形状まで具体的に記載されている箇所もある。される。領境を示す塚や杭については、その領境は記号で示され、城下名や領主名が記

茶屋の名物等が記された部分もある。されている。このほか、各地の土産物や伝説、「切手」(通行手形)のやりとりについても記また、それぞれの場所で御供達が行う挨拶や

簾を上げて挨拶する意かと考えられる。なお、頻繁に見える「御小簾」とは、駕籠

道中勤方略記

匹

を、 それ 参詣、 項にも見られるが、 「勤方」に特化した内容となっている。 程 主として津 に対 などの地理的: 箇条書きで記してい 服装の 応する宿場 注意点、 軽領内から千住 情 報 本項には寺社等の建 や関所等 御供 は る。 含 ま 達 の関係 いれず、 まで の 同 規定や 様 の、 の 題 内 者 一容は前 この動 名 慣 寺 通 物 例 社 ŋ \$ き の

五 附録

松・船渡・小休止等に関する三箇条からなる。「四 道中勤方略記」に付随する内容で、馬

六定

で出会う者への対応に関する内規と思われる。人馬世話役人、飛脚、関所の番人等、旅先

七 伺之部

てるべ 朝 関 の き事 所・ 出 発 項 船 0 が列挙されている。 渡の通過に 際 0 動 や、 いつ 杖 て 信息 杖 伺 € √ の を 使

八 御小姓組之頭勤方

姫 に関する記述が続 分を占める。 を行う場 様 所々での土産物の購 つの内容が含まれる。 御前様」「津 所が列挙され、 その後に千住で出迎えをする「金 軽 屋三右 ح 第 の 項 酒 事 に、 目 0 寺 社 小休 の およそ半 育等 止 の

月十六日生まれ。 嘉 に信順と婚約し、 田安斉匡の九女で、文化六年(一八〇九) 歳で亡くなってい 永四年 金姫は弘前藩十代藩 の正室で、 八五二 同五年十二月に輿入れした。 文政四年 「欽姫」 九月 主津 十四四 とも表記され 軽 信順 日 数 八〇〇 え四 六 月

関東 け、 一 九 任命された。 屋号を与えられ、代々「三右衛門」 活躍した狩谷棭斎である 八九~一八一七) 津軽屋は、 九四 貞享元年 元文二年 奥 年、 州諸国の江戸回米の委託販売を引き受 は その後裔ということになろう。 + 吉川弘文館)。 (一六八四) 津軽家の御 (一七三七) に弘前藩からこ に書誌学者・考証学者として 代目 が、 (梅谷文夫『狩谷棭斎』、 用 八月、 寛政~文化期 本資料における「三 達商 人狩谷家 初めて蔵元に を名乗った <u></u> 一七 で

門御 ニ 而 花沢 政 使 図 れ 嘉 四 類 者 て 第 三に、 石宝 丁巳十月二十三日」 の 永四辛亥念三月廿日」 目見之節の六か所である。 ć ý 御 に、 様 而 る。 湊 柴崎 式 直答之節 院 先触 而 が記され 御目見之節 立 (1) 一ち寄 佐 弥 碇 左衛門 ケ関 竹 れ うり先 の 様 てい 者が 三而 ⑥千住ニ而 御 御 使 の 含者御直: とい ⑤千住ニ而 部 る。 目 宿 の日付 玉 見之節 場 屋 上 ż そ 寺 の の 3 监答之節 見取 日 の 御 担 津 が見られ Ŏ 例文に 当者に 軽 付 目 部分には、 見之節 屋三右 金姫 が 4 図 あ 若 が (3) 様 木 「安 出 記 す 御 Ш 之 衛 尾 さ

給

九

年十二 失礼 を通 達 長 の 過 走 一月也、」と 無 7 する時は笠や冠物を取 (佐竹 いる。 いようにと、 家 領 尾に 北端 う註 記がある。 「午十二月」 北 Ш 院 左膳」 内 り (南端) 馬 なる人物 から降り、 安政 の É. 番所 が

所

を

道中心

などの る際 注 文化八年正月に 意が記されてい 御三家 行列に出会っ 水の者 出さ た場 日 れ 1光御 合の たもの。 門守 作 街 武 道 通 家 伝 行 旅 す

> を が

军 道中掟

交代に係る旅の心得につい て記す。 前

木 は

政

述 に 元 々 江 の の 戸 ように、 道 中 の 掟 参 0 勤 弘 内 前 ル 藩 容 1 は寛文五 を を変更 知 る上 で 年 貴重 て 61 六六五 で る あ の で

+ その 他

配 最 度、 後部 ら が 金」「覚各之事」 れ あ 御貸人自分家来手当 御 b, に、 た、 菓 子が配られた、 と 御 度目 あ 目 る。 付 御 の ま 際に茶坊 御 [酒事] た、 小 給 姓 とある。 形 組 万 延 主 に 御番割」 「諸令中 元年 か は一 ら 御 度 九 月 菓 御 御貸 ほ に 子 目 か。 が 見 は

> 羽 口

ら Ш

得

〇本資料の成立年代につい

なる引き写 簡潔 ?見ら 沢 興 成 羽 玉 に わ 筆 本 黒 ٤ 味 立 羽 写 資料は、 れ 黒、 る。 年 に れ イ し、 深 そ ٥ د ۱ 代 整 る と表記するなど、 <u>_</u> が、 の は 理 下 ただし「三 参 し 弘前 南 明 し 野 で ||勤 第 交代の 確 てある点こそ 実用性を意識 ないことが の 玉 異本 [黒羽、 尾 に、 で 藩 花沢が な 士 に 際 が 新 道 下 が の 藩 庄 野 分 の 中 参 所 松 領 記 前 次 が 部 玉 か 記 考 蔵 の し スの二つ 羽黒 る。 氏 重 て 載 の 南 に に 一要で 諸 地 が の 道 の L に 名の をす たも 預 な あ 中 接 所 項 する名 の の お、 0 記 あ 記事 べ 地 概 など 混 四 の 況 同 て 出 単 لح か

Б.

羽

安政 伴う東西 巻上』一九八八、 万三千石 れることになっ 国 年 は、 郡 三年 南 尾 村 十二月 松 花沢周辺で一万三千石が Щ の土生田 [蝦夷地 郡 前 の内であること、 匹 で三万石が与えら 領 八 五 三万石 日 上知 とその次 松前町史編纂室)。 五、 た 代 り と封 替 内 の領地とし 松前氏 地縮小が行 の 前町 また、 と 記 本 飯 れ に対 史 松前 さ 田 通 さら て陸 尾 れ に 説 花 氏 わ て あ 篇 奥国 る朱 に 開 沢 れ € 1 より 預 同 た。 第 玉 出 村

事典』 忠邦の 九月、 藩主とな 五万石」とある。 る中 Ŧ. 五万石となった。 第二に、 こうした点 転 年六月二十四日、 柳 年三 水野 で得 嫡子忠精である。 封となっている 強制隠居となった父の跡を継い 営 補 たが、 月晦 忠邦 た情報 Ш 八 任 然から、 Ŧī. 形 。 の 八 日に奏者番となった時 の 第 項)。 その際、 「水野大監物」 項に + 知見を補 頃 巻)、 左近将監に遷任され 予資料は、 に成 「水野 大監物は嘉永六 (吉川弘文館 弘化二年 月 安政五 領 立 晦 7大監物 足 知を二万 \exists 基 は、 本部 浜 修 年 実 老中 際 正 松 御 国 の官 分が か 石 四四 城 L で 更大 て 使 八 ら 削 浜 た。 水 下 Б. 八 用 安 五. Ш

形 れ 厚く御礼申し上げる。

な

お、

九八) 参照されたい。 軽デジタル風土記_ 物館) が、弘前大学教育学部のW アルな姿を描いた「参勤道中記」 公開されている。 料館蔵津軽家文書、 ては「江戸より御国迄行程記」 ほどの幅がない、と考える。 六〇)の年 ったものと思われる。 に国文学研究資料館のデジタル・アーカイブで 最後に、 本稿では、「一 が、 前出の 道中記」の翻刻文のみを掲載し 津軽家の参勤ルートの見取図とし 紀があることから、 また、 「御登御道中記」などととも で公開されている。 請求記号同二二B·〇一八 (凡例)」「二 末尾に万延元年 羽州街道各地のビジュ 紙幅の制約もあ (国文学研究資 e b サ 使用年代はさ (弘前市立博 小坂通諸家 イト 併せて 八

本稿を査読して頂いた長谷川 成 氏に 国ニー同 からか なるが きるみねちつ なり いスぱか 一个目 之一同 カイ同

「道中記」の冒頭部

奥州通道中記」(青森県立郷土 館

【資料データ】

令和2年度購入資料 受入番号 二四六七 —一

(体裁)

横帳

(閉じた状態)

九·〇×一

九

五. セ

【校訂者注・補足】 七六丁 (表紙・裏表紙は除く)

①凡例の記号は、**ゴチック太字**で略記した。

塚印→ (塚)

舟渡→

舟)

川渡→ Δ

右同 0

国堺

領境

#

②旧字体は原則として新字体に改めたが、 により原表記のままのところもある。

③句読点はすべて、 校訂者による。

④敬意を示す欠字・平出・ 字間・行間を詰めた。 擡頭の類は省略し、

⑤貼紙等による修正箇所については次のように 表記し、 その位置を「※」などで示した。

=複数行にわたりめくれるもの

=単独行分だけめくれるもの

(点羽) 懸紙

(貼紙 すべてを覆うよう貼り付けるもの

(表紙) 奥州通

△ 立 0 国堺 川渡 舟渡 塚印 領境 右同

道中記

印

印)

久保田

新 庄

金山

山

形

上 一ノ山

ŝ

血

offin 地花色紋白

本戸ノ字 御先払小路堅

八丁、

本

弘前より千年山迄二里廿八丁、

碇ヶ関迄七里

地紺紋白

地紺紋目引

地黒紋黄

一、本丁一丁目

夫 軽

左之方御制札有、

、同二丁目

出口石橋あり、

四丁目

五丁目 三丁目

小紋柿

湯

ジノ原

地黒紋目引

福

島

地黒紋白

二本松

中浅黄白

越堀

太田原

地黒紋目引

宇都宮

黒絹羽織

小坂あり、 親方町

、土手町 、下土手町

右之方御制札あり、 町中土渕川、蓬莱橋あり、

、土手鍛治町 、新土手町 町中左 (塚)、

同下小川あり、

松森町

其外御代官所ハ大体田ノ字也

町中小坂、 小川、 橋あり、

小坂通諸家看板

(丁アキ)

※(朱書)「朱書・点羽付ケハ御前帳より書記候、

乍

道中記

*

去間違も有之、」

- 170 -

富田 町

る、又、原ヶ平村庄屋も出る、 入口釜萢堰、 橋有、 右之方町奉行・町年寄出 御先より告来

御中小性申上る、

、足軽町

右之方御蔵跡あり、 百年山

丁上坂下 (塚)、

碇ヶ関迄四里六丁、右之方松原之内御休所有。

弘前より此所迄惣御供也 小栗山 家廿軒程

村中小川、 橋有、 右之方松山之内十二所権現

社有、 庄屋・手代出る、

松木平村

五丁上右、 右之方森山ニ御小用所有 四十軒程

大沢村 三十軒程

下端右之方八幡之社有、 村中小川、 橋あり、

、大沢新田 廿軒程

石川村 八十軒程

六丁下右 (塚)、下端石川、 大橋有、 上端左

之方堀越之道あり、 村中右之方大仏ヶ鼻古城

之跡見ゆる

上端小川、 鯖石村 橋有、 左之方黒石江之道あり、 七・八十軒程 六

> 羽川、 橋あり、

宿川原村 廿八軒紀

剣ヶ鼻之坂有、 山之上ニ御休所あり、 前方可

、大鰐村 八十軒程

宿中左 (塚)、上端右之方大鰐川 橋有、 同

所湯之川原江之道あり、

大日派 七・八軒程

右下端槻之木之大木あり、

蔵館村 七十軒程

下之節御参詣被遊候、 行人派、 宿中温泉三ヶ所あり、左之方大日堂有、 弘前大円寺末寺神岡山高伯寺、 右之内御供代ルなり、 別当 御上

右之方大鰐之阿闍羅山見ゆる、

蔵館との間、 本長峰村 左之方八幡社有 十四・五軒程

長峰村 廿軒程

二丁上 (塚)、下端左八幡宮・ 薬師堂有

、九十九森村 廿軒程

此間に福島渡と云橋有、

、唐牛村

卅軒程

二丁上 (塚)、 下端右之方観音堂有、 左之方

りン石有

古懸山見ゆる、

古城之跡あり、

八幡の社あり、

应 五軒程

楔が

御参詣被遊候

左之方古懸への追分道あり、

御上下共古懸江

片側村也、

五丁下右之方碇石と云大石あり、

碇ヶ関 二百軒

堂有、 白沢迄三里三十丁、釈迦内迄五里、 上町中右之方御仮屋御門前 上端山神

付出る、 御制札有、 御関所・ 御代官出る、翌日御関所前御通之節、 々庄屋・手代出る、左の方町之後に温泉あり 御番所江出る、 町中左之方三笠石有、 左之方辻番所有、 御仮屋御門外へ御目 是より下之方村 御仮屋御門外 町奉行 、町奉行、

同所御着否ヤ、踏込・羽折ニ而伺御機嫌罷出

杉橋、 候、 尤役人衆并頭方へも廻り申候、 御番所迄之間川三ヶ所有、 遠部川・津 同所より

御番所、 温泉有、 刈川、 杉橋有、 杉橋、 大石ヶ沢、 御番所より右之方辻番所有 右之方(塚)、是より峠下之 橋有、 左之方湯之沢と云

、矢立峠 是より下り坂也、 上端 峠下之御番所より一丁程先大坂也、 川と云、 此所へ御代官出る、杉峠ハ津軽・秋田之境也 杉峠とも云、 新峠へ出る、 (塚)、御上下共峠之上ニ而御休被遊候 道不分明之人往来成かたし 、峠之上左之方御休所有、『 **(サ)** 羽 両界 瀬越多し、 陣場迄之間川多し 是より Щ 侭行

陣場村 七・八軒程

下端左之方山神堂有、 丁下新峠川瀬多し点羽) 上 (点羽)とち川瀬越

尻合 三十軒程

※九丁上 下番 御番人と下番之居所、 自分下之節ハ久保田ニ而切手取、此所ニ置也 御番人下座、 上端右之方佐竹様御関所有、 佐竹様御家来両人出る、其外下番も出る、 ハ御門左右江出、 (塚)、 御窺上る、下番御駕籠より挨拶、 同所長走共云、 扉押ゆる也 前に有之、 御通之節御関所 宿中小坂 番所前柵立 有

川向松原村といふ有、 (朱書)「宿中小坂有、 寺之 沢迄廿六丁也、 六丁上松原川、 瀬越 し、 右

松原 四 五軒程

寺野沢 四·五軒程

より尻合迄廿六丁有、 有故呼出ル也、 丁上 (塚)、 端寺の沢と云川、 通之内少し左脇之村也、 十丁上松原川 瀬越也、 瀬越、 塚印 塚

、白沢四-(朱書)御本陣山内儀兵衛 1十軒程

川向に松村、

松原より尻合迄十六丁

釈迦内迄一里、

本 百八十文

百二十文

九十文

大館領也、 御上下之節馬継也、 上端小川 瀬

> 越、 山下ニ白沢川 下端道心庵有、 瀬越 右之方山之上神明社·

有

高六千石、

久保田

ニ而西様と号ス、

大鄙之内

押也、

町中左之方居館

有

御通之節御先払出

小路堅メ出る、右同

右之方連正寺、

る、

橋桁村 七・八軒程

下端橋桁川、 瀬越、 右之方惣染堂・稲荷堂有、

断、

下端左之方神明堂 あり、 御駕籠脇より挨拶、

法花宗、

宿中坂有、

右宗福寺、

禅、

下之方ニ

萩長森 七 八軒程

下端通より少し脇村也、 山神堂あり、 右惣染、 萩長森と云山 有 左

釈迦内 五十軒程

橋なり、

大館領之内御上下共人馬白沢迄通

夏者瀬越、 愛宕堂有、

川綱出るル、

御小簾、

御通之節仮

上端大館川にて

(舟)、

△船渡、

※大館迄一里

本

也、

四天王ハ大館

・比山・湯沢・横手、」

長軽町

十七・八軒

(朱書)

「同所より久保田迄三十里、

白沢者大館

軽

夫

三丁上 (塚)、上端釈迦川 有 右之方実正

禅、 左之方稲荷堂

※(朱書)「右方松峰山見ゆる、 不動尊といふ、怘懸不動尊と一体分身之由といふ、」 峰ニ不動尊有、 松峰山

三十軒程

板子石

(朱書) 同浜松新六 三丁下 (塚)、 端右観音堂、 近年家引越

(朱書) 五 四 I 百 軒

程

大館

※綴子迄四里廿四丁四 (朱書) 又日五里

間

本

軽 夫

同所 下 $\dot{\Box}$ 郡 佐竹家四天王之内佐竹大和住居、

> 二十丁上 下端町界木戸 る、 餅田村 (塚)、 有、 左之方唐の嵩と云高山 十軒程

館鼻村 船場村 (朱書) 又弐十軒 三十軒程

※下端 一、川口村(朱書)佐藤兵左衛門 箱ニ而御同人家来出る、 出る事もあり、 ハ瀬越・仮橋なり、 (塚)、三丁半上餅田川、 ※ (朱書) 「川口迄十丁あり、」 尤川綱、 御小簾外ニ足軽両 御馳走人鑓・挟 船渡、 水無時

上端小 ЙĮ 瀬越、 仮 五十軒程 橋の節も 有

社あり、 左之方ニもろこしの嵩見ゆる 右之方八幡

見ゆ

横岩村 三·四軒程

岩瀬村 二十六・七軒程

上端 (塚)、 **○**宿中岩瀬川 (舟) 船渡、 水

、早口村 無時ハ瀬越、

○宿中早口川 (舟)、 船渡、 夏者瀬越、 船 橋

、長坂村

、 綴子 同高橋万三郎 下 (塚) 七十軒程

坊沢迄一里、

力 本 廿三文

拾弐文

方八幡之社、下端右方愛宕堂、廿二丁上秋田 七丁下 (塚)、宿中左之方法正寺、 禅、 右之

Щ

深沢村 二・三軒程

綴子川、 瀬越、 左之方愛宕堂有、

横道沢 四・五軒

五丁下 (塚)、 坊沢新田共云、

見ゆる、 近年新村ニ成、

瀬越、 洪水之節往来留る也

左之方比内川

坊沢

小繋迄二里

九十軒程

之節もあり、 又ハ仮橋也 二十軒程

下端長坂有、 宿中左神明社・権現堂有、 十四·五軒程

四十軒程

一間

本 三十六文

二十四文

夫

十八文

也、 比内川と云大川見ゆる 此塚川欠ニ而見へす、 小沢多し、坂上り口左之方稲荷堂あり、 下端左之方七倉天神堂有、 四丁下柳二本ニ而替る 今泉之間高山

船場 四·五軒程

※ 〇宿下一里渡と云大船場渡(舟)、 野代川へ続也、 ケンダン・ 肝煎出る、 此川下切

※(朱書)「同所ニ而御供之外歩行立之分廿六文ツ」 挨拶ニ不及、此川中程ニ岩穴有、 津軽通

本 五十四文

銭出候也

(朱書) 同菊池藤四郎

八十軒程

飛根迄一里三十丁、

本

力 三十六文

二十八文

宿中右立山神明堂有、右永安寺、 前山 (朱書) 又五十軒 三十軒程

端左之方三ヶ月堂、前森川、 八丁下左森有(塚)、上端右之方天神堂、 橋あり、

下

力

三十九文 五十八文

三十軒程

八丁程上右方溜池二ヶ所、 宿中右之方神明堂

上端右之方天神山清徳寺、

禅宗、

是七倉天神

比井野

百軒程

夫 二十九文

の別当也

薄井

八十軒程

一、 小繋 (朱書)同高橋与左衛門

四丁下柳二本有 (塚)、 荷上場迄三十五丁卅

宿中 (塚)、上端左之方愛宕堂有、 清水堂左

一、切石鼻(朱書)同工藤名左衛門

十五・六軒程

宿中左之方平安寺、禅宗

之方神明堂、 下端野代、 **〇**川 (舟)、 船渡、

川向より荷上場へ廿二丁、

一、飛根 (朱書) 同大高治左衛門

四丁上 (塚)、鶴形迄一里十六丁廿間 八十軒程

※下端坂下野代川有、 上端左之方観音堂、

本 四十六文 左長徳寺、

禅、

此間山越也

力 三十一文

夫 二十三文

(懸紙)

「一、飛根派

拾軒程

同所右方沼有、

道より少脇也

多戸粉内 書) **Q**合印

拾軒程

同所少左脇村也、

上端芹川とて小川

橋あり、 (朱書) 御前帳ニハ此村鶴形之前ニ書記有

丁廿六間、

十八丁作り坂上り口

鶴形

五十軒程 (塚)、

、 (絵山) 上 上 上 上 上

里十六

力 本 三十一文 四十六文

二十三文

海蔵寺、 上端坂の下右之方野代辺、 禅、 下端鶴形川、 野代川有、 大橋あり 宿中右

道より少し脇村也、

上端芹川と云川有

一、多戸粉内 (朱書) **O**

十軒程

、 桧山 (朱書) 神馬太郎兵衛

百軒程

森岡迄二里二十六丁、(朱書)又三里

* 本 八十五文

五十七文

四十三文

千石 三丁下 野代押也、 (塚)、 同所多賀谷下総知 御通之節御同人家来 行所、 御先 高五

> 端大日堂、 上ニ屋敷有、 払両人出る、 多宝院、 御駕籠脇より挨拶、 久保田ニ而ハ城主と唱る由、 禅、 左之方愛宕堂、 右之方山 常明 上 之

院 門 徒、 地蔵院、 真言、 観音堂有、

之方桧山川、 橋有、 夫より下右野代道有、 下端左

三丁下松長沢之内 (塚)、 此塚より鶴形迄廿 廿

八丁、 ※ (朱書)「豊岡迄三里十六丁四十六間、」

志戸橋 二十軒程

間上り赤坂、下り赤坂とて三坂有、 十八丁下柏木の内 (塚)、 柏木野より比山 坂の上よ の

り野代の海見ゆる、

金光寺 廿軒程

下端右之方権現堂有、 左之方惣染堂有、 野代

道あり、

豊岡

七十軒程

※森岡より七丁廿五間、 端右之方野代見ゆる、 (朱書) 又十五丁 下十五日馬継勤之、 同所より野代迄三里、 上

(朱書)「鹿渡迄二里半、」

(朱書) 嶋田勘次郎 森岡

百軒程

下端 (塚)、 鹿渡迄一里廿八丁廿八間

本 四十文

力 二十九文

二十二文

籠脇より挨拶、 上十五日馬継也、 下端左之方神明堂有、 御通之節御先払出る、 宿中森 御駕

> 豊岡も御先払出る 岡川と云、 大橋有、 向左之方真覚寺、

(朱書) 又三十軒程

荒屋敷 二十軒程

三丁下 (塚)、 宿中左之方龍光寺、 禅、 下端

左之方神明堂、 溜池あり、

一、浜村 十軒程

卜云 右之方八郎太郎の潟あり、 長サ七里 · 巾 ·四 里

鹿渡

八十軒程

本

日市迄二里廿六丁、

力

夫 三十七文

宿中左之方山王堂、 右之方清源寺、 禅

、山屋村 十軒程

二丁下(塚)、

鯉川村 二十軒程

右に八郎太郎の潟有、

、天瀬川 五十軒程

五丁下 (塚)、 宿中天瀬川 小川

説に清瀬川と云、

、三倉ヶ鼻 三十軒程

左之方海辺ニぬか森と云山有、 .所本ハ山の名なる由、十四丁上地蔵峠と云、 又 左に高

有 峰二地蔵塔、 松壱本有、 山 の下地蔵

と云、

間坂派 夜叉ヶ袋 六十軒程 三十軒程

上端 (塚)、左之方溜池有、

(朱書) 小林九左衛門 阿武川迄二里二丁四十一 (朱書) 又一丁四十一軒 九十軒程

五十六文

力 三十五文

二十八文

宿中左之方山王堂、 右之方清源寺、 禅、

一、大川 九十軒程

船渡、 七丁上 下端右之方天神堂有、 (塚)、〇上端五所ノ目川と云 五十の目川とも (舟)

五十辺川の事なり、

四十一文

同所より鹿渡へ二里三十丁、

浜井川 廿軒程

宿中浜井川、 橋有、 左之方神※明堂有

伊塚村 三十軒程

下端

(点羽)「一、浜井川新田 十軒程

(朱書) 又四十軒

三十軒程

芋川

下端芋川 土橋、

和田村

下端右之方古城之跡有、

阿武川

八十軒程

※大久保迄二里廿八丁、宿中左之方佐竹様御鷹

野之節御休所有、 ※(朱書)「湊迄四里三丁七間、」 阿武川と云、 小橋あり、

一、大久保(朱書) 菅沼久四郎

六十軒程

宿中 (塚)、湊迄三里廿五丁、

八十四文

力 五十九文

四十二文

下端大久保川、橋有、 左之方月山堂、 同円福

禅宗、

、新関村 廿軒程

此辺より北方津軽大間越の境見ゆる、(朱書)山 右に男

鹿の島見ゆる

、清水茶屋 三十軒程

(塚)、右之方家也、上端男鹿之島江の

道あり、

、下仮茶屋 三三十 -軒程

右之方山影より引移り之村也、五丁上鳥井・

道あり、

中野村

三十軒程

六丁上 分有、下端山影北野天神堂、左之方古城の跡 (<mark>塚)</mark>、 村中左之方庄内・羽黒への追

右之方男鹿へ之追分道あり、

むかし新庄山城と云人住居の由

六丁上

有、

堀川 廿軒程

井妻共云、 上端津部足川、 橋あり、

恵比寿堂

有、

国上 十三軒程

※上端 (塚)、 下端より北の三里とて砂原

「一、惣染村※(点羽)

五拾軒程

左之方惣染堂有、

、奏(朱書) 山村与十郎 湊 九百軒程

久保田迄

一里廿九丁五十六間、 端 (塚)、

四十九文

力 三十三文

夫 二十五文

久保田より御使者有之、 御返之節ハ御先払出る、 御駕籠脇より挨拶、

御直答被遊候に付

御次廻り帯刀ニ而御挨拶有之、

湊新町 三十軒程

下 (塚)、 上端左御米蔵・御茶屋有、 右

之方湊町奉行所也

三十軒程

茶屋有、上端右之方虚空蔵堂有、 左之方権現

矢場勢 上端上坂より砂地也

置場所有、 半丁下 (塚)、半丁上砂川橋有、 下端荒神社有、 左之方御仕

穢多町 三十軒程

革物・具もの有、

足軽町 五十軒程

下端町境 木戸有、

久保田

※豊島迄三里三丁、

本

夫 五十八文

右京大夫様と号ス、 同所佐竹様御城下、 二十万五千八百石余也 御通り之節御先払出る

御城へ之道也、 御駕籠脇より挨拶、 自分下り之節ハ此所ニ而切手 本丁右之方へ入小路有、

取 足軽町との間境辻あり、

門有、 大川、 馬喰丁伝馬役所有、 「江戸より同所迄百四十三里、和田まで三里十五丁、 橋有、 此川より便船有、 町中小川、 橋、 馬喰丁入口木 木 戸 下端馬喰丁入口

足軽町 百軒程

町中右

ニ明神堂あり、」

'中小川橋下端' 馬喰丁へ之入口、 大橋有

> (朱書)高橋惣左ヱ門 入口境木戸門有、 左之方神明堂有、

百二十軒程

と云、 上端(塚)、町中左之方観音堂有、 大橋有、 橋向左之方宝影寺、 上端山川 下端左之

方鳥海山見ゆる、 三ツ屋 廿四・五軒程

扨御先払出る、

、 二 ツ 屋 十軒程

橋有、 右の方古沼あり、

、新##田村 上端猿田川、 二十軒程

三丁上 (塚)、 右に同、 長田村と云有、 宿中

薬師堂有

横山村 十軒程

茶屋也、宿中より久保田の御城、 砂 山見ゆる、

上端右之方愛宕堂有、

、五軒茶屋

五. 六軒程

五所野と云野原有、 佐竹様御鷹野場所なり、

右野方湊之海見ゆる

豊成村 十軒程

十丁下 (塚)、

一、 豊島 川村澤右門

※上端川端 (塚)、下十五日馬継者此塚川欠ニ 五十軒程(朱書)又九十軒

之方山道有、此道より人馬共宮島へ通るなり、 而無之、 * 一丁半下端ニ而替なり、 船場、

> 方万蔵寺、 禅、 上端Q 十丁程上ニ豊成川

下端右之方古城の跡有、

神明堂有、

宿中右之

(舟)、 船渡、 夏瀬越、 又仮橋

※(朱書)「境迄三里三丁、」 * (朱書)「淀川迄三里五丁、」

(朱書) 小野清右衛門

和田村 五十軒程

淀川迄三里三丁、

本 百三文

六十文

五十二文

豊島と十五日代馬継也、

渡、夏ハ瀬越、 仮橋の時も有、 廿二丁下豊島川、 下端養伝寺 舟

禅宗、

、石川村 (朱書) 又十軒トモ

上端 (塚)、 宿中左之方観音堂有、 下端右之

方雷電堂有

坂本村 廿軒程

同所船場より少 ノし脇也、

宮崎村 五十軒程

0上端石川 (舟) 舟渡、又者瀬越、 仮橋の時

もあり、

、下甚内村 十五軒程

上甚内村 Т. 六軒程

一端甚内川 小橋

船ヶ沢 二十軒程

三丁上 (塚)、 蕨餅名物也、 下 苏

船岡村 三十軒程

村 中 **(塚)**、二丁上舟 河岡川、 小 橋 向長坂

上り也、 此間山越し

上端一之渡と云 下芦壁村 (舟)、船渡、 五・六軒程 夏ハ瀬

越

仮

橋之時も有、

芦壁村

四 五軒程

(朱書) 鈴木孫十郎 下芦壁之間二丁斗

八十軒程

地蔵堂あり、 上十五日馬継、上端左之方佐竹様御休所あり、 別当見成院、 権現堂有、 安産之守出し、 右ニ唐松大明神の社 同梅松寺、

川 四十軒程

同愛宕堂有、

下端左之方大明神堂有

中 (塚)、 **苅和野迄二里一丁、**

本 六十八文

四十三文

三十四文

※

下十五日馬継也、 下端淀川、 大橋、 左右庵寺

二宇有、

六・七軒程

六丁上ウト坂上 塚より一丁上山中左白滝大明神堂有 (塚)、 宿中右方福常寺

道あり、

入口鳥井有、

下之節参詣候ハトウト

· 坂 下

吉沢村 三十軒

前沢村 三十軒程

高木村 五・六軒程

、 苅和野(朱書) 今野庄右衛門

百五十軒程

一丁上 **(塚)**、 新町まで一里廿丁、

本 五十四文

力 三十六文

二十七文

(朱書) 拾人 三十人、佐竹様より御先払出候得ハ、 同処秋田家臣矢野隼人知行所、 五千石、 御駕籠 足軽

宿中右之方佐竹様御休所有、 脇より挨拶、上端左之方神明堂有、 左之方清光院、 不動院、

真言、 右之方願龍寺、 門徒、 本念寺、

亀田江と追分通路、 舟渡し

右之方居館有、

二丁半下右古川橋有、

新町 六十軒程

※二十四丁上 (朱書)「神宮寺迄拾六丁余、」 (塚)、 花館迄一里廿丁九間

本

力

夫 **卅四文**

> 天川、 塚より十丁上座当橋有、 大橋有、 橋向左之方古城之跡 是より三丁上酢川

Щ

(朱書) 高橋名兵衛

上ニ浮潟明神堂

南能寺、

禅

神宮寺 八十軒程

※十四丁下 手前一人出る、 Ш 地内住居、 小簾上る、二丁先二又舟渡有、 々待合之所也 方八幡社有、蔵院、真言、 (舟)、 大舟渡、 年、蔵院、真言、神有、忞 **(塚)**、上十五日馬継也、 御通之節出る事も、 川岸ニ番所あり、 川綱、 * (朱書)「花館迄一里、 御馳走人出る、 川向一人、川 **▲**有、神宮寺 是川綱之面 斎藤長門 宿中右之 御

(朱書) 斎藤七太郎

花館 九十軒程

※十一丁上中 九間 劜 原内 * (朱書)「大曲迄十九丁三拾間、 (塚)、 六郷迄二里廿二丁

本 七十一文

四十七文

三十七文

▲下十五日馬継也、五丁上花館川 川綱、 見合替へし、三丁上ハ神宮寺渡也、 待合之所也、 三本の杉見ゆる と云山見ゆる、 手前一人、 御馳走人出る、 神宮寺と同所へも川端番所、 此塚川欠ニ而無之、 往昔安部貞任陣場山の上に 御小簾、 川向一 (舟) 中川原之内 神宮寺嵩 舟渡、 右 Ш

大曲 百軒程

下端 花館との間並木柳有、 方宝泉寺、 (塚)、 浄土、夫より高無川と云、 同所佐竹様御休み所あり、 ※上十五日馬継なり、 大橋有、 右之

「 一、大曲新田 ※ (点羽) (塚)、 十五軒程

、下新井田

二十軒程

なると云、 右之方本阿ミ目村と云大口有、 仙北川の舟渡

、上新井田 下端左之方神明堂有、 十軒程

、追分茶屋

四·五軒程

上端 (塚)、右之方片側村也、 右ニ鳥海山見

ゆる、 宿中左仙台道あり、 角間川有、 浅間江

一、六郷 朱書) 米沢栄吉

之道有

四丁上(塚)、金沢迄一里十五丁二間

二百軒程

本 三十四文

力 二十三文

十七文

清水あり、 城址之由、 此所昔六郷兵庫頭在城之由、左之方杉二本有、 諏訪明神堂、上端右之方養泉寺、 宿中左之方薬師堂有、大連寺、浄 、地蔵堂、

野荒村 三十軒程 (朱書) 「此間山越し、」

> 五丁上 (塚)、 金沢本町 下端野あら川、 六十軒程 橋有、 *

下端宿中 (塚)、 横手迄二里

本 五十三文

力 三十四文

※ 夫 二十六文

事也、 橋有、 宇あり、 同八幡社有、 小川あり、橋之上に景政高名の印杉二本有、 下端左之方鳥海弥三郎城跡有、 此間山越なり、 上端左之方中の目川と云ふ、 右之方連光寺、 景政ハ鎌倉の権五郎か 門徒、 宿中厨川と云 寺三・四 小川

※(朱書)「同所上端左方鳥海弥三郎古城跡有、 此川のかちか目半之由、 鳥海弥三郎ニ左の目をいられ、 成源頼義、 部貞任・宗任兄弟、 康安五年発向之砌、 厨川ノ城ニ楯籠たる時、 今二常ニあるよし、」 宗臣鎌倉権五郎景正、 右川ニ而洗ける、 宿中安 相敵と

中野目村共云、三村ニ切、宿中左之方徳寿寺、 金沢新田 五十軒程

中野新田 四·五軒程 門徒

三丁上 荒小屋 (塚)、 左之方脇村也、 五十軒程 塚有故記、

三貫関 二十軒程

> 一、横手 五百年(朱書) 松木与三郎 一、吉沢 <u>二</u>ッ 安本 屋 五百軒程 几 四 兀 五軒程 五軒程 五軒程

※鍛冶町中(塚)、湯沢迄四里廿二丁、

本 百五十文 ※朱書

「久保田より同所迄二十里、」

カ 百文

夫

七十文

休所、 町中左之方阿弥陀堂有り、夫より蛇ヶ崎川 御駕籠脇より挨拶、 城主と唱候由、御通之節御先払二人出候得ハ、 秋田家臣戸村十太夫、知行高六千六百五十石 大橋あり、 山崎村 夫より上武家町と云、村かくし辻有 橋向左之方居館見ゆる、 小路堅出る、 六・七軒程 同断、 佐竹様 四

宿中左薬師堂有、

新堂柳田 三十軒程

一、石成村 四丁下 (塚)、下端赤坂三ツ有、 右清水有、 神明堂・太子堂有、 三十軒程 此間野 中 な

、梨馬場 (朱書) 又梨木場 三丁下 (塚)、 合の宿茶屋なり、

二十軒程

※上端

下端左之方愛宕堂、 宿中左八幡宮社、 佐竹様

御休所、

、古内村

十 五 ・六軒程

四丁上 (塚)、

岩崎村 「岩城川 (舟)、」三十軒程

成沢村 丁 (塚)、 宿中左観音堂有、 四十軒程

杉沢村 原 三十軒程

四十軒程

五百軒程

一、湯沢 (朱書) 松井林太郎

院内まで三里廿丁、

※(朱書)「同所より碇ヶ関迄五十八里十丁四十間有、

本

夫 五十文

居館有、 同所佐竹左衛門知行所、 方本光寺、 より挨拶、 真言、 四家之内也、 御通之節御先払二人出る、 真言、 小路堅無之、 町 `中湯沢と云小川あり、 二丁下前森丁入口、 久保田南様と号ス、町中左 下端左観音堂、 九千石、 万石之格式 上町左之 御駕籠脇 小川 宗泉

> り、 関口村 是村境なり、

下端右之方山田と云人住居之由 城跡有、

薬師堂、 赤坂岳といふあり、

、若狭村

酢川村 二十軒程

※下端酢川と云、 泉あ、宿中右之方松の根より流出る清水あり、 大橋有、此川魚無之、 川上温

* (朱書)「此酢川、 上関村ノ次ニ有リ、 如何、」

、下関村 三十軒程

(塚)、

、上関村 五十軒程

宿中右之方神明堂有、 同右の方に鳥海山 見ゆ

中泊村 六十軒程

一丁下 (塚)、

Ŧī. **十軒程**

小野村

跡あり、 る故、 城の国小野とふ所の人に而、 境村迄小野七ヶ村と云、往昔小野好実住、 郷の名を以小野村と云とそ、 当国の郡司とな 好実屋敷 山

水口村 五十軒

宿中左之方神明 稲荷町 地蔵堂有 二十軒程

下端左の方神明 社

吉町村 一十軒程

左

十軒程

、古堂村

七・八軒程

境村

五十軒程

有

下端左之方権現堂有、

安藤寺、

塚の面ニ大同二年と斗有、

左の方好実の城

云

昔小野小町の植し所也と、柵の中ニあり、

宿中左の方田

の

畦に芍薬九十九本有、

古俗伝

宮内村

二十軒程

村之内也

宿中左之方山の 上に神明堂有、 此 汎所小野·

、横堀村 五十軒程

宿中(塚)、下馬場村五丁上横堀川 右地蔵堂有り、 川綱、 両人出る、 大橋有、

、下馬場村 二十軒程

丁上馬場川 橋有、

新馬場村 廿軒

宿中左勢願寺、 **※** * (朱書)「院内迄廿五丁、」

一、下院内(朱書)斎藤儀八郎

八十軒 袓

佐竹様御休所有、 同所秋田家臣大山十郎住居、 上ニ同流之川有、 御本陣、左之方院内川有之、 大橋有、 橋向左観音堂・薬 高七百石、

師堂、 別当泉福寺、 天台、

八十軒程

(塚)、 及位迄三里十一丁、

二百文

力 百三十文

百文

御小簾、 院 自分上り之節久保田ニ而切手取此所へ置也 大川、 先払出候得者御関所柵外ニ下座、 上端右之方佐竹様御関所有、 禅、 大橋有、 下端左之方愛宕堂、 下番人下座、 左之方院内川有、 御駕籠脇より挨拶、 、仁王門有、別当 長安寺 御番人出下座、 右之方ニ新能 挨拶、 別当、 宿中 御

東北 秋田領

西南

新庄領

り駒泣セといふ難所有、 峠之上佐竹様御休所、 是より下り坂也、 馬立場之下 (塚)、 峠下

小沢多、 厚_{ホウノキ} 朴沢 上院内、 二・三軒程 染川あり、

※一丁半(塚)、下端右、羽州矢島 なり、 両界分杭二本有、 丁上境川、橋あり、 左の方杉峠上り口なり、 御上下共此所二而御小休、 是より半丁上り七色木 峠之上紫坂難所 峠之上左右 へ の 道 有(

清水抔今ニたへすして有、高橋図書とふ人住居 といふ山有、昔城跡之由、 (朱書)「及位迄之間、所,小沢有、 由、夫より右ニ臼沢といふあり、 館の山ニ屋敷跡の由、 右ニ倉ヶ館

(朱書)高橋作左衛門

三十軒程

※金山迄三里

* (朱書)「上中田迄 里半、 同 .所最上郡之内、]

本 百六十二文

力 百八文

清水有、 小簾、 挨拶、 木沢の間所、小沢多し、 と云高山あり、昔城跡之由、 赤坂有、 上端左御関所有、 同所戸沢様御領分、 左之方家の後に及位川有、 御先払両人出る、 八十一文 下り口右臼沼有、夫より上右倉ヶ館 高橋図書といふ人住居之由、 下番人下座、 御通之節御家来出る、 御駕籠脇より挨拶、 館之上屋敷跡 御駕籠脇より 六・七丁上 ほうの 有

、下戸沢 五・六軒程

所有、 厚朴峠とて難所有、 橋より峠上り口丸森山と云山有、及位との 丁上、三丁半下、 (塚)、 峠の下右之方小社有、 塚之下及位と云、 峠之上 狗 丸森沢と云、 橋有、 夫より つき坂と云難 橋あり、 水、 下 院内 川橋 間 此

、上中田村 六・七軒程

峠近所より流れ来る也、

司 所落合村 共云、 干餅名物也

本中田村 三十軒程

弥陀堂有 上中田村の間 家続、 村中左之方山神堂有、 阿

> 一、下中田村 四十軒程

(朱書)

此所馬場村共 둣

金山 新 田 四• Т. 軒程

内

(塚)

一、金山(朱書)柴田九平司 四丁上森屋敷の

八十軒程

新庄迄三里半、

本 百五十文

百二文 七十文

宝院、 出る、 り、下端左之方愛宕堂、 御先払両人出ル、 戸沢様御領分、御通之節万宝院出る、 山伏也 同断、 金山、 御駕籠脇より挨拶、 Щ 橋有、 宿中大法寺、 二丁下長坂上 御 小路堅 禅、 小簾 万

十軒程

山崎村

上代村 程

上端上代橋有、

赤坂新田 卢 五軒程

上端 雨天の節ハ難所なり、 (塚)、上代村迄の間赤坂と云三坂有、 南之方湯殿 Щ ・鳥海 Ш

和泉川 新 田 三十軒程 見ゆる、

赤坂三ツ目下り、

右之方小社有、

上端 (塚)、 赤坂新田迄の間柏木並木也、 +

八丁上、横根沢といふ赤坂有、 宿中八幡社有

柳原村

四ツ屋共云、 上端泉川、 瀬越し、 又ハ仮橋

川綱、 御馳走人出候得ハ御小簾

一、太田村(朱書) 古卜有 、荒小屋村 十軒程

三十軒程

光寺あり 上端右之方八幡社有、 同橋雲寺、 永林寺、 常

三丁下 (塚)、船形迄二里八丁、

、新庄 (朱書) 伊藤弥惣右衛門

八十六文

五十九文

四十三文

松岸寺、 方泉龍寺、 り挨拶、 方御城御門見ゆる、 小路堅出ル、 御通之節御馳走人出る、御小簾、 羽州最上郡戸沢上総介様御城下、六万八千石 人下座、 夫より茶屋町下端かくし辻あり、 挨拶、 天台、 又二・三十丁行ハ御門見ゆる、 小川、 御駕籠脇より挨拶也、 下端六日町中右長泉寺、 十日町左泉正寺、 町中さすの川といふ、 下番人下座、 御先払両人 門徒、 御駕籠脇よ 町中右之 禅、 下番 右之

茶屋町

鳥越町

二十 -軒程

八丁下 (塚)、

十丁下

 \equiv 四 [軒程

太平ヶ口村

、椚木村

Ъ.

小茶屋有、 右庄内への追分道有、

鳥越の間柏木並木也

(朱書) 早坂文兵衛、清水半助

名木沢迄一里半

六十四文

力 四十四文

夫

三十三文

船渡、 社有、 番人下座、外ニ御先払両人出ル、左之方八幡 同所迄新庄領也、 瀬越、 川綱、 長泉寺、 御下向之節ハ川端ニ而馬継也 御馳走人出ル、 禅、 下端右御関所有、 上端猿羽根川 御小簾、 御通之節 (舟)、ム 水無時

西之方 $\widehat{\mathcal{T}}$ 新庄領

東之方 松前様御預地

三丁下 (塚)、尾花沢迄二里 名木沢

八十三文

上端左の方愛宕堂有、

夫より下大川橋有、

五十軒程

五十軒程

夫

四十三文

力

六十八文

六軒程

所有、

山形より之切手此処へ置也、尤自分下

下端坂下名木沢と云小川有、

右の方土手、番

との間野間也、最上川見ユ、戸羽坂と云坂有、

通之節御先払出ル、

御駕籠脇より挨拶、

芦沢

同所松前伊豆守様御預地

一万三千石之内、

御

くの木有、

境分杭二本有、 宿中右之方長仙寺、

芦沢村

三十軒程

峠有、

山中

(塚)、

塚より六丁程坂の上

三両

り之節也、船形迄之間山越、三十一丁下猿羽根※(朱書)当時無之、

宿中右之方大石道有、 右名木沢也、 此山 越

之方最上川見ゆる

野黒沢 三十軒程

一丁下坂上 宿中右之方諏訪堂、 (塚)、 下端野黒沢と云小川 別当一明院 橋

一、萩ヶ袋 三十軒程

宿中左方報教院、

一、尾花沢 (朱書) 笹森保三郎

四百軒程

※本飯田迄二里、

五十四文

三十九文

二十七文 (朱書)「土生田迄一里半、」

松前様御預地一 万三千石之内也 御通之

井と云 即御代官役所也、往昔鳥井佐兵衛亮住居之由 中左仙台江之道有、 節 鳥井伊賀守先祖也、 ハ御先払出候得者、 山王堂、 (舟)、 天神堂 △船渡、 同古城之跡有、 左龍正寺、 御駕籠脇より挨拶、 有、 Ш 了仙寺、 綱、 倉迎寺、 御手代出ル、 御陣屋有、 七丁上乳 宿

御小簾、

石田辺・尾花沢家続也、 下端滝川、 滝村 (朱書)「又疣取村と有、」 二十軒程 瀬越、 又ハ仮橋也、 七日町 'の間 上端右之方大 入口左之

方六角石、 高三尺位 (塚)、

横内村

二十軒程

下端なめ川 瀬越、 又者仮橋也

追分茶屋 四軒程

二丁下 (塚)、

土生田 五十軒

※上十五日馬継也、 之内也 右之方薬師堂、 貞養寺、 御通之節御先払出ル、挨拶、 禅宗、 松前様三万石

本飯田 ※ (朱書)「本飯田迄十八丁、 六十軒程 館岡迄一里半、」

三丁下 (塚)、 館岡迄一里八丁

四十六文

二十三文

三十四文

跡有、 有 御通り之節御先払い出 (朱書) 「下十五日馬継也、 宿 中 右菩提院、 松前様御領分三万石之内也、」 ル、 左石山の上に遠見番所 挨拶、 下端左出城

、金屋村 三十軒

林崎 五十軒程

福寺、 古城之跡有 同所御代官支配所也、 禅 居合夢想之神也 御手代等出ル、 宿中左之方喜 左之方

館岡 一百軒程

上端 (塚)、 ※六田迄一里十六丁、 (朱書) 又二 ※ (朱書) 「宮崎迄

里

声 丁、

本

力

夫

御通之節御馳走人出ル、御小簾、(朱書)同所秋元但馬守様御領分之内なり、 石有、 ゆる、 宿中左の方正安寺、本覚寺、 籠脇より挨拶、左小松沢観音堂の追分道あり、 阿部能登守様御家来・御先払両・ 人住居之由、 徳正寺、 入口門の上ニあり、 上端清水二ヶ所有、 六丁先上清水有、 右之方家後五 左方城跡有、 夫より上右之方愛宕 上端町中界辻有、 昔館岡甲斐といふ ・六丁先最上川見 山口ニ浮中と云 人出 同所ニ ル、 御駕 而

一、六田

十八有、

十五丁下に左之方湯殿山見ゆる

六十軒程

下端より館岡迄の間いろは林と云て、

石橋四 浄土、

手代出ル、

宿中観音堂、

左之方常恩寺、

丁上

(塚)、

上十五日馬継也、

同所ニ而御 (朱書) 御代官支配、

宮崎

七十軒程

本 八拾文 天童迄二里廿丁、

力 五十文

三十八文

下十五日馬継也、 宿中二ヶ寺有、 御通の節御代官出 上端白砂 Ш 瀬 御

小

四ツ谷新田 七・八軒程

一、若木新田 (朱書) 御代官支配

御小簾、 宝院、 下 疱瘡の守出ル、 上端より四丁半上、 宿中若木ノ森有、御代官支配所也、 御通の節石宝院出ル、 野川と云川、 別当山

、乱川村 三十軒程

尤別当より御先払両人出

ル

挨拶ニ不及

上端乱川、瀬越、(朱書) 御代官支配地、

久野本村 三十軒

四丁半 老野森村 (塚)、 六丁下天部川 二十軒程 の大橋有、

- 158 -

此間家続也 宿中左浄福寺、 浄 土 右 0 方仙台追 分道 有

北 南 (+ + 羽州 常州土浦 天童 領 領

一、天童 金子栄助 五百軒

程

Щ 田形迄三里半、(朱書) 又三里と有、

百九文

五十四文

七十三文

同所織田左近将監様御城下、高二万石之内也

御通之節御馳走人出ル、 御駕籠脇より挨拶、

下端左東福寺、 童修理亮住居の由、 宿中左の方古城の跡有、 町中に薬師堂、三宝寺 昔天

上端神光寺、 天童川 有

芳賀村

三丁上 (塚)、二丁半程上右方清水有

、門前町 一 一 一 (朱書) 又蔵増門伝村と有、 二十軒程

同 .所館林御領分也、 御代官入交りの由

清池村 廿軒程

-端立屋川 瀬 越、 館 林御領分也、 説 ニ生

池村共云

(懸紙抹消)

北南 方方 御代官領 領

> 漆山 村 Ŧi. 十軒程

殿山への道あり 右方光善寺、 分六万石の内也、 人為御馳走出ル、 丁下松一 本 門徒、 (塚)、 宿中左正 御通之節秋元様より勤番役 円行寺、 同所秋 上藤院、 元但馬守 位稲荷社あり、 禅、 様 御 湯 領

、七浦村 七十軒程

水野様御領分也、 右之方庚申堂、 稲荷堂、 又

観音堂あり、

七浦新田 十 軒程

同 所館林御 以領分也、

南方 + 山形領

北方 館林領

長町村

九十軒程

宿中右正念寺、 上端左観音堂

下 -端ぬる川、 瀬越、

沖野原村 二十軒

二端村隠辻 (塚)、

(朱書) 又三百軒余

町 Ŧī.

銅

同所右側家也、 丁 下まみかばユ・六軒程 崎 Щ 瀬越

川向沖ノ沢村也

(朱書)後藤小平次

白町 四十九文 (塚)、 原迄 里 十· 九丁四十八間

> 力 三十 ·四文

夫 二十五文

落合、 宿の 羽州村 役人衆改方へも回る、 間 節 也 江戸・御国引違御飛脚立 山郡山形、 御国 水野大監物様御城下、 ・江戸より之御飛脚御同所ニ而 江戸より九十四里十九丁十 御通の節御馳走人出 五万石、 伺御機嫌有 御 止

御小簾、 端左之方庚申堂、 中右之方光善寺、 御先払両人、 禅、 左中寺有、 御朱印、 御駕籠脇より挨拶、 本行寺、 二百石也、 八日町 上 六

自分登り節同所ニ而切手取、 手御門見ゆる、御番人下座、 日町左の方伝馬役所有、 七日町左の方御城追 西の方笹屋道有 下り之節同所ニ

光忠寺、 浄土、 而取、 光常寺、 名木沢へ置也、 浄土、 禅、 下端辻有、 常寿寺、 下宮町右之方泉正寺、 御城御門見ゆる、 天台、 夫より右

南館 三十軒程 自登之節切手松原へ置也、(分脱)

同所山 丁上山形入口 形領也、 下端千年山と 村隠辻有 ιV を山 . 見 ゆ Ź

北方 y Щ 形領

佐倉領

南方

吉原村 二十軒程

御領分、 下端 (塚)、 御通り之節御馳走人出 同 所下総佐倉領、 堀田 ル、 備 御小簾、 中守様

川有、 御先払両人出 境杭二本有、 ル、 御駕籠脇より挨拶、 端 小

西方 東方 # 佐倉領 山形領

出 同境下次川と いる。 舟渡し、 Щ 綱 御馳走人

片谷地

三十軒

程

、松原村 (朱書) 草刈市郎右衛門 山形領なり、 五十軒 程

※上の山迄一里十一丁、 本 五十九文

力 二十八文 三十七文

御関所あり、 此所山形領、 御駕籠脇より挨拶、 吉原村の御先払此所迄出 御番人下座候而、 下端入口木戸門有、 御小簾、 下 右 番

リ之節ハ山形ニ而取候切手此処ニ置 (朱書)「同所右方山形御関所有、 御家中自分登

黒沢村 三十軒程

五里、 宿中 ふ 川 平 有 (塚)、 -地なり 是出羽国十五里ヶ原とい 橋也、 松原村と続村也、 此塚より猿羽根山塚迄之間十 下端黒沢とい Š, 此間 山

黒沢新田

※下端黒沢坂といふ大難処有、 (株書) 城 北方 南方 跡のよし、 **#** 御代官領 尤御代官領なり、 上の山領 * 館の峠ともいふ (朱書)「、 飯

官領入交有之、 両境黒沢新田迄之内佐倉領 峠御休所有之、 • 上 の Щ 領

四ツ屋新田 十軒程

御家来也、 方上之山御関所有、 五丁上右地蔵左右に有 ハム御小簾、 くに有、 右之方両境杭あり、 外御先払壱人出ル、 左之方黒山といふ森有、 下番人挨拶、 御通りの節御番人下座候 (塚)、 尤松平※山城守様 同所家はなれ 上五丁石地蔵 宿中左之

※ (朱書)「上ノ山 ノ前足軽町十軒位、下端町境ノ辻有、」

一、上の山(朱書)原田周蔵

※町中右温泉有 (塚)、 楢下迄二里八丁、

(朱書)「同所より江戸迄九十里廿八丁廿三間

本 五十九文

力 三十七文

夫 二十八文

小路堅出 節御馳走人出ル、 同所松平山城守様御城下、 ル、 御駕籠脇より挨拶、 御小簾、 御先払三人出ル、 高三万石、 町中追手御 御通 0

御代 村隠辻· 門見ゆる、 宿中 、長清水村 下端前川と云、 下関根村 (塚)、 有 下番人下座、 清水川、 四十軒 二十軒程 大橋有、 小 荊 御駕籠脇より挨拶、 一町界辻あり、 橋有、

同所入口

※右二ヶ村続也、 下端 上関根村 * (塚)、 (朱書) 中関根と上関根と家続也、 「中関根村四十軒程一丁隔り、」 左之方米沢道 六十軒程

皆沢村 二十軒程

関根の雑木並木

左之方楢下道 姥ヶ袋村 有 十軒程

一、楢下(朱書) 桧山文吉

湯ノ原まで三里十二丁、 八十軒程

本

力

夫 九十六文

同所上 動御参詣 動 所有、 御駕籠脇より挨拶、 別当右京坊、 一の山領、 御 有、 通の節御番人出 自分登之節上の山ニ而取切手、 赤山 楢下峠江出 御先払一人出ル、 Щ 大橋有、 御小簾、 ル、 右之方御関 御小簾、 楢下不 下番人

訪明神堂あり 此所江置也、 上端右之方高山有、 二丁上右諏

七丁上 赤山新田 (塚)、 赤山川、 五・六軒程 大橋有、

下端右の方

山神堂有 金山茶屋

三丁下 被為入候而御休也 山際の茶屋へ被為入候、 而御休被遊候、 (塚)、 上端右稲荷堂有、 上の山領也、 御下ハ宿中の茶屋 御通の節茶屋ニ 御登ハ上端

西南 仙台領

軒有、 奥羽の両境なり、 金山迄の間楢下九折長坂なり、 右之方不動の社有、 茶屋

桧皮新田 三十軒程

下端 (塚)、 荊 有、 橋有、 上端より峠迄の

長坂なり、

※上端 一、湯の原 六十軒程(朱書) 高橋孫右衛門 (塚)、峠田迄一里六丁、

本 四十八文

三十八文

右之方大川有、 二十四文 石川 知行所、 右之方仙

台様御関所有、

村隠より東之方東光寺、

北 上の山領

金堀山· 有 小沢多し、 山中ニ

本

力

(朱書) 渡辺勘兵衛 石川 知行所、 五丁上滑津川、 七十軒程

本

五十三文

l, 道 五丁程下庚申堂、 右之方渡し、 右米沢道也、 瀬川 是より米沢城下迄六里十八 是追分の印也、 左之方楢下

、峠田六 ※(朱書)「同所より江戸迄八十五里八丁廿三間、」

六十軒程

十一丁下(塚)、滑津迄一里十一丁

本 五十三文

力 三十五文

夫 二十七文

大川、 石川 大土橋有、 知行所、 上端峠田川、 湯の原より 此 此所の間 土橋、 十丁上 小川

宿中熊野権現堂あり、

、 滑津 五十軒程

十一丁下(塚)、関迄一里十一丁、(朱書)又八

夫 二十七文

大土橋有、

二十六丁上 (塚)、 八十文 渡良瀬迄二里

夫 四十文

> 石川 円蔵寺、 知行所、 真言、 宿中小橋、 松平陸奥守様より火の元〆 Ш 有、 右関泉寺

役二人有之、

、楢下新田 三十丁上 (塚)、 原新田共云、 二十軒程 是より関との

一、原町 間所,小川、土橋、二十七丁下左向 森と云高山有、 土橋より半丁下右の方、松二本有、是則塚也 夫より下の方、 十四・五軒程 さいの川 山伏 原

五丁下 (塚)、三丁下小川、 土橋有

渡良瀬 五十軒程

本 四十六文 戸沢迄一里二十丁、

力

夫

同所石川 良瀬川有、 桧皮新田より流来る川なり、 知行所なり、 宿中左家の後ニ渡

一、下戸沢(朱書)大宮新兵衛

四十軒程

上戸沢迄廿四丁四十三間(朱書)又「里四丁四十三間

本 三十八文

二十五文

十九文

同所片倉小十郎知行所なり、 の追分あり、 左之方渡良瀬川、 流下川 丁上左白石江 新

の内也、 境也 有 四丁下大坂山也、 出候得者御小簾上ル、 堂より二丁下山の上 と云山あり、 付不動之堂有、 峠との間大石斗有、 Ш 御 向 上下の節右不動へ御不詣被遊、 居 西の方長井郡の内、 城仙台角田といふ所也、 岩に飛付不動の形赤く見ゆル、 左之方茶や有、 峠下渡良瀬川といふ、土橋 峠の坂上り、 (塚)、此辺新峠と云、 川端ハ片倉小十郎知行 、石川ディック Ш 向 山の上左飛 右川 三万石 別当 ハ両

※二十丁下 (塚)、小坂迄一里六丁、 一、上戸沢 七

四十五文 六十八文

三十四文

あり、三十丁下三ヶ月石有 番人挨拶、下戸沢との間山越 仙台様御関所あり、 片倉小十郎知行所三万二千石 御番人下座、 石瓷 所 の内、 御小簾、 小川、 下端 橋 下

西北 仙台領

東南 御代官領

新峠ニ 遊候 の節御参詣被遊候、 而 坂下ハ小坂なり、 不動堂、 別当 堂の前 情 光寺出 小坂ハ回り坂と云大 山の上ニ而御休被 御上下

> Ж 難所也、 (朱書) 奥州信夫郡・葛田郡との境也、 「同所より江戸迄七十六里十六丁十間、」

六十軒程

下端 (塚)、桑折迄一里 十八丁、^{采書文半}

本 五十四文

力 三十六文

夫 二十七文

御先払出ル也 堂、峠の上少下左之方境棒杭二本有、此所へ、 峠上ニ而金剛院出ル、 上戸沢迄之間上り坂也、十三丁下峠上り(塚)、 御小簾、御先払両人出ル、御駕籠脇より挨拶、 同所御代官支配所なり、御通之節御手代出ル、 御小簾、 清水有、 山神

此間小沢多し、 和泉田村 四 十軒 程

1村家三・四軒ツょ、 北半田村 二十軒程 三 • 兀 ケ所

下端右益子大明神堂有、 御免村 三十軒 程

(朱書) 佐藤新右衛門 南半田村 二十軒程

三百軒程

五丁上 瀬之上迄一里十四丁、

力

夫 二十七文

、岡村 之方仙台道 沢と云小川、 両人出ル、御駕籠脇より挨拶、二丁下おほろ 信夫郡江戸より七十三里六丁、 右方城跡陣屋有、 御通之節ハ御手代出ル、 瀬越、 右ハ 小坂道追分印、 御代官役所下端銀山有、 上端町中連光寺、 七十軒程 御小簾、 御代官支配所 地蔵塔有、 藤永寺、 御先払 左

五丁上 (塚)、

、長倉村 三十軒程

、北河原村 宿中薬師堂有、 三十軒程

南河原村

-軒程

下端摺紙川 来留る、 (舟)、 舟渡、 水無時

来大土橋往来なれ共、 洪水ニ而橋落ル時 瀬 越、 ハ往 近

福島迄二里八丁、

一、瀬の上(朱書)穴戸屋作右衛門

百軒程

本 八十文

力 五十四文

夫 四十文

木下肥後守様御領分なり、 挨拶、 |端霊山ヶ嵩見ゆる 御小簾、 宿中龍光寺、 御先払両 禅、 人出 右之方古城之跡有 御通之節御馳走人 御駕籠脇よ

新鎌 田 村 六十軒程

あつかし山見ゆる、 三丁半上 (塚)、 同所御代官領、 右之方

本鎌田 村 六十軒程

る、 はつた川ともいふ、 払両人出ル、扨前書之通上端まりこ川の橋有 左之方鎌田正清の館跡有、右之方羽黒山見ゆ 御通の節御代官・御手代出ル、 外ニ御先

御代官領也、 一本有、 境杭下まつ川、

> 瀬 越、

> Ш

向 右境 三十軒程

南) 福島領

北 奥州信夫郡

杭迄東西南北、 御代官領 両 境也、 六万石の場所也 此堺より小坂峠の上、 堺

五十辺村 三十軒程

宿中左方信夫文字摺の石の追分道有、 上端右

之方に堺杭一本有、

、五十辺新田 二・三軒程

上端 音とて三十三観音堂有よし、 (塚)、下端右之方高山の上ニ岩屋の観 鷲峰山観音寺、

真言、 境内住居、

五呂地村 五・六軒

中右天神堂地蔵堂有、 此所增御供出

、福島 (朱書) 黒沢六郎兵衛

※若宮迄二里

※ (朱書) 「江戸より同所迄七十一里九丁、」

本 八十文

力 五十四文

夫 四十文

門徒、 方常念寺、 扨此前之通御駕籠脇より挨拶、 御通の節御馳走人出ル、 同所信夫郡板倉内膳正様御城下、 大円寺、 禅、 浄土、下端村隠しの辻有、 真常寺、 御小簾、 真言、 下端町中右之 左方光泉寺、 御先払両人、 三万石也

郷野目村 二十軒程

土橋出来、洪水ニ而右橋落る時ハ往来留る也 といふ大川(舟)、舟渡、 三丁下 (塚)、一丁下荒川、 大蔵寺村 (朱書) 又四十軒程 又ハ瀬越、 橋、 五丁下須川 近年大

福島領也

伏(ぶしおがみ) 村 二十軒程

宿中左之方黒岩の虚空蔵堂への遊分道あり、 信夫郡福島領也、 下端中居川といふ、橋あり、

西南 御代官領

東北 福島領

右堺より伏拝村迄之間長坂也、 Š, 此坂を伏拝と

> 根子村 八十軒

三丁上 ふ、左方清水有、 (塚)、下十五日馬継也、 棒杭二本両境に有 清水町共い 此村よ

、若宮 り御手代壱人出ル、 五十軒程

八丁目迄一里四丁

本 四十二文

力 二十九文

御代官御手代出ル、 夫 二十一文 御先払共前書之通扱也

、八田村 、浅川新田 御代官領也、 上端左之方若宮八幡宮有、 此間赤坂有、 四・五軒 六・七軒程 Щ 上十五日馬継也 [越し、

前田様御預 所也

比丘尼石といふ大石あり、 半丁下浅川といふ小川、橋有、 中浅川 六・七軒程 半丁 上右野中

、本浅川 二・三軒程

※下端 野 守様御知行所、 屋越とい 大木槻之木有、 上浅川 「中所、大石斗有、 (塚)、 Š 同所下総国関宿の城主久世大和 六万三千石の内也、 * 下端右之方羽黒米沢道有、 三・四軒程 (朱書)「同所柏の実名物也、」 山越し、 宿中左右 板

市野坂 新 田 三·四軒程

同所浅川村の内、 是より北之方会津 中の福島

領と下総関宿領入込有之、

十軒程

十丁下市野坂と 、ふ長坂、

(朱書) 桜内新兵衛 三百軒程

二本柳迄一里二丁、

力

夫 二十二文

堀尾越冲守住居之由、御領地、此辺鞁ヶ岡と 四丁上両境より伏拝の坂上まで信夫郡七万石 同所信夫郡二本松領也、下端二本松の番所有 此辺鞁ヶ岡と云由、 上端古城跡有、

橋有、 土 清連寺、 下端左之方最光寺、 禅、常円寺、 禅、 真言、 此村之間家続 常正寺、 浄

宿中松川といふ小川

南方 安達郡

北方 信夫郡

薬師堂新田 六・七軒程

半丁下 (塚)、

十八・ 九軒程

大取上村

御通の節 同所二本松領也、 御番人下座候へハ御小簾 下端右方丹羽様御関所 下番人ハ 有

御駕籠脇より挨拶、

下端小川

有、

石橋、

両境也

※杉田迄一里二十九丁、

本

四十六文

力

三十文

二本柳 十軒

※二本松迄二里三十丁、 ※朱書 「油井迄十八丁、」

本 四十八文

力 三十一文

同所丹羽左京大夫様御城下、

十万七百石、 御先払、

御

夫

二十三文

夫 廿四文

当也、 也、 小川、 師堂ニ而開帳有、 東光寺医王院ニ有、 原ノ黒塚、 下十五日馬継也、上端油井川、 神堂あり、下端取上ヶ坂といふ長坂有、 油井 宝暦十四年正月十二日より江戸茅場丁薬 橋有、 縁記ハ十二銅ニ而出ル也、 人肌薬師、 此処より北方大取上ケ、 五・六十軒程 霊仏の開帳なる故記之、 山伏也、 縁記ハ宿中右方弘誓山 即人肌薬師の別 小橋、 霊仏の薬師 安達 難所、 坂下

寺、

惣雲寺、

伝法寺、 天台、

門徒、

町

有、

正念寺、 門徒、

禅、

長関寺、 浄 土**、**

御門番下座、

御駕籠脇より挨拶、

宿中八幡社 右之方真教

籠脇より挨拶、

町中右之方御城御門見ゆる、

通の節御馳走人出ル、

御小簾、

御

.駕

福岡村

下端とふ川とい <u>ئ</u>ىر 橋有、

八軒茶屋 十四·五軒程

丁程野中ニ安達ヶ原黒塚あり

一丁半下 (塚)、

茶屋多し、

辰巳の方五・六

観音有

、足軽町 三十軒程

上端村、堺木戸 門有、 下端村隠し辻有

、二本松(朱書) 伊東与惣兵衛

二本松領也、宿中右円東寺、真言、 境内疱瘡

中より長坂有、 足軽町 ※朱書「江戸より同所迄六十五里廿五丁、」り長坂有、坂の上ニ辻番有、 五十軒程

丁半下 **(塚)**、町中小川、 橋有、 下端堺· 杧

戸 門有、 村隠辻有、

おれん茶屋 二十軒

石焼豆腐茶屋有、宿中小坂有、此間並木松有

上端七夜桜とい 正法寺 · ふ有、 二十軒程 右の方山上ニ天竺仏

杉田 六十 軒

程

本宮迄一里十三丁、

五十六文

力 三十六文

二十八文

厳角寺、 よし、 多しといふ、 二本松迄宿中、 左方山上ニ、 天台、 温石山光恩寺、 此二ヶ所の寺最明寺殿 仏神の像を刻ミ付たる岩 天台、 和田 発立の 山

温石町 四十軒程

丁半下 杉田薬師 下端杉田川、大橋、 **(塚)**、上十五 六・七軒程 薬師堂有 日馬継也、 温石売店

水有、 宿中左之方薬師堂有、 茶屋有

麓左方薬師の井とて名

松串村 五・六軒

山あり、 嶽と云山有、 下端右之方、二本松嶽湯元江の追分有、 下端右之方すかまの 常ニ烟立ル由、 地といふあり、 鬼 面森といふ黒 東ケ

四百軒程

· 端 (塚) 高倉迄一里十一丁、

本 五十文

カ 二十二文

夫 二十五文

下端会津道有、 本松領也、御通の節 家の後逢隈川、下端小川、「阿武隈、以下同) 御馳走人・御先払両 土

橋有、 町中寺四宇有

新井新 田 四 1十軒程

安達郡の内 匹 十丁下人取川と云川 有 人取

> 峠 高倉 有

郡山迄二里 半

本

力

ニ成、

佐与姫といふ人、大蛇退治後、

此地元の社内

千四百年

橋有、

(頭注)「養老七亥年と有、今戌年なり、

へ納候故、

蛇骨の地蔵といふ、」

福原

六十軒程

有、

此辺の左ニ当て見ゆる山中に小川、

Щ

ノ井

も西南に当て

山の麓に

有

浅香の沼も

あさくや人の思ふもの

か

五丁上 いるい 下端五百川、 出候得ハ御駕籠脇より挨拶、 有、 (塚)、二本松領也、 古城の跡有、 大土橋有、 高倉遠江守住居 下逢隈川ニ続也、 御通の節御先払 上端左牛ヶ鼻と の由

五十軒程

高倉新田

右側家也、 左方安積山 有 山の上ニ老木の松

比和田村 (日和田、以下同)

八十軒程

寺之内、蛇首の地蔵堂有、 五丁下(塚)、宿中下端左要正院といふ寺有、 蛇の※首を胎内ニ

香山見ゆる、 蛇のあかり休たる石とい 佐世姫水やとりといふ、 世姫御影 石程の田地となりて今所、作、 納 の 誤 ル 故名とす、昔蛇の住たる池有、 有 古歌ニ、 老木の松あり、 棚かき桜有、 又田の中に大石有、 نج 道脇二丁程寄り、 安積山 同 寺内、 里塚之間浅 右之三百 「ハ浅香・ 松浦佐 Ш

浅香山影さへ見ゆる山 の井

軒程

土橋有

といふ、

里ほど脇ニ有、二十丁下比和田

፲፲

沼より上りたる鐘有、

沼

境に有、

安積の沼

五郎景正の堂有、

本清寺、

禅、

右ほら沢沼有、

下端(塚)、二丁下福原川、

瀬越、

宿中右

の間、 下端右方阿弥陀堂有、 久保田 天正の頃より伊達政宗・ 七十軒 観音堂有、 佐竹義 同 所福原迄

岩城・相馬と合戦の場所と云

、大篠村 五・六軒程

一、郡山(朱書)今泉久右衛門 半丁下久保田川 橋有、

兀 五百軒

川迄一里半、

本 四十八文

夫 廿四文

三十文

取扱前条之通、 本松領也、 御 通の節御馳走人御先払出ル、 宿中寺二 左之方家の後逢

隈川、 小荒田村 下端右之方三春の城見ゆる、 六十軒程

丁下 (塚)、

日出山

五十軒程

二本松領 二丁半下 (塚)、須賀川迄二里八丁 笹川 名酒有、 七十軒程 一丁半下笹 Ш の土橋有

六十文

夫 力 三十四文 四十八文

二本松領也、 御通の知 節 御先払出候得 ハ前書の

通扱、 宿中一宇有

南方 **サ** 長沼領

重+北方 寺内 二本松領 二十軒程

長沼預所、 二丁下左之方、 堺杭二本有

四十軒程

下滑川村

滑川村 三軒程 又三十軒

松平播磨守様御領地也、 下端長沼坂と云、右

有 なめ川とも云小川なり、 坂下より出ル、

清水有、

下端左り川

とい

· ふ 川

南方 高田領

北方 長沼領

長沼刑部預所といふハ、 水戸松平播磨守様御

> 有之、 知行取扱の内、 播磨守様御在城、 高二万石の内也、 常州新沼郡府中 同所も入込

下宿村 八十軒程

※宿中

(塚)、

矢吹迄一里十丁、

※ (朱書)「中畑新田迄一里半、」

笠石

八十軒程

の

時分鏡の如く水湛、

影見ゆる也

二丁半 (塚)、 高田領 十二丁下森ノ内両杭

中宿村

あり、

高田領、 下端岩瀬森有 山上大職冠鎌足大明

神社有、 石の鳥井有、

南方 白川領(白河、以下同)

y

、須賀川 (朱書) 藤井半右衛門 北方 高田領 (朱書) 又三百軒 二百軒程

※笠石迄一里十三丁、 ※朱書「矢吹迄二里十丁、」

本

力

夫

跡有、 磨守様御領也、 寺五字有 江戸より五十四里廿八丁、白川領也、 前条之通 下端小坂有、 上端左之方水戸道有、 御通の節御馳走人・御先払出 小川有、 諏訪明神堂有、 古城の 阿部播

高久田村 二十軒程

五丁下 (**塚**)、 五丁下赤坂有、

二十軒程

鏡沼新田

白川領也、 右之方家の後へ竹藪之内沼有、

夏

夫 力 本

一十軒程

下十五日馬継也、 此辺宮城野ヶ原といふ 宿中左笠石有、 右長命寺、

久来石 八十軒程

※上十五日馬継也 、同所ニ而馬の尾といふ滝有な

(朱書) 横川栄之助

右光源寺、

真言

※(朱書)「中畑新田迄一里、

一、矢吹 九十軒程

下端 (塚)、 踏瀬迄一里廿丁、

本 百文

力 六十四文

夫

廿五文

御通の節御先払 両 人出 ル、御駕籠脇より挨拶

宿中寺一宇有

中畑新田 匹 一十軒

白川領、 烏峠ハ溝山 上端左棚倉への道有、 「への道、 此追分より往来、 是より棚倉、 白幡明

神堂有、 正福寺、 天台、

大和久 五十軒程

下十五日馬継也、 同所御代官領也、 御通之節

端右之方両堺分杭二本有、 御手代出 ル、 御小簾、 宿中三能 寺、 真言、 下

御代官領

北方 (t)

白川領

七十軒程

踏瀬

(塚)、 太田川迄一里廿六丁、

五丁下

本 四十七文

力

三十一文

二十四文

手代出ル、先払出ル、 上十五日馬継也、 高田 前条之通扱、 領 当時御代官預、 右之方阿 御

弥陀堂、 下端観音堂有、

四ツ屋新田 四・五軒程

半丁下右之方すかまの池有、片葉の池共云、

片葉の芦あり、

岩崎新田

兀

五軒程

(朱書) 石射弥次右衛門 太田川 (朱書) 又九十軒程 <u>-</u>軒程

※三丁下 白川迄二里、

※朱書「小田川迄十三丁、」

下十五日 馬継なり、 同 所高田 領 御通の 節 御

手代御先払い出

小田 川 八十軒程

発

州

へ下向の時也、

右関山乃麓に秀衡帰

※上十五日馬継なり、 有 出 有 山 の 同所右大石あり、 上二八幡の社有、 * (朱書)「白川迄一里弐三丁、」 御通 其下より湧出ル清水 の節御手代・ 上端右山上薬師 御先払 堂

か

方へ入、成人の後ニ秀衡を頼

軍勢を催し、

といふ所あり、

源義経初而奥州

へ下向、

和泉田 村 二十軒程

下端七曲坂といふ赤坂有、 八丁坂といふ、 Щ

の上右両境杭

南方 **9 ,**白川領

北方 御代官領

根田村 二十軒程

宿中 (塚)、 左関雲寺、 禅、 境内九葉の楓 有

下端右山の上ニ愛宕堂あり、

足軽町 二十軒程

下端赤坂有、 左会津道あり、 追分清水有

河原町 十五軒程

※下端逢隈川、 白川二所の関山見ゆる、文治五年七月、 四十六間の大橋有、 左之方昔の 源頼

朝 か此関を越る時初秋也、 能因か昔を思ひ出

さると宣へハ、 秋風に草木のつゆをちらハせて 梶原源太景季馬を控へ、

君か越れハ関守もなし

是 と詠しけれ 奥州の守護泰衡御征罸として鎌倉を進 二品、 御 入興甚しとい へ り、

> 鎌倉二登り頼朝二謁候時、 しと也、 又能因法師か詠ニ、 秀衡此関まで送り

都をハ霞と共に出しかと 秋風そ吹白 川 の関

源 位頼政か、

都をハ青葉なからに出しかと

紅葉ちりし か白川の関と

* 詠候も此関也

(朱書)「同所野郎か蕎麦とて名物之茶やあり、」

一、白川 (朱書) 羽賀四郎

天神橋 (塚)、 白坂迄

卅丁、

本 七十七文

力 四十九文

夫 四十文

堂有、 石橋有、 有、 払両人、 Ш 同所阿部播磨守様御城下、 郡 左之方愛宕堂、 右之方円福寺、 御 御駕籠脇より挨拶、 右之方棚倉江の道有、 通の節御馳走人出ル、 田町の内右薬師堂、 下端町堺木戸門有、 高十万石、 旅丁の内一 御小簾、 天神丁天神堂 奥州白 一里塚 弁天 御先

一端村隠辻有 町中 亦川 橋 有 下端町境

木

足軽町

五十軒程

戸門有、

皮籠村 二十軒程

四丁下(塚)、下端一丁左、 金売吉次・吉内

る由、 の墓所有、 同所ニ而皮籠ニ入葬埋たる由ニ而、 昔此所ニ而熊坂と云盗賊ニ逢死た 此

有 村を皮籠村といふとそ、下端吉次・吉内の社 同所ニ而八幡宮ニ祝い、 野中より引越

宝暦十二午年夏の頃勧進の由とい ふ 今ハ所

の氏神也、 宮の入口鳥井あり

芦野迄三里、

(朱書) 佐藤平左衛門

百

軒程

本 百三文

カ 八十三文

六十五文

白川領、 ハ前書之通、 御通の節御馳走人出ル、 宿中右観音寺、 天台、下端左 御先払出候

龍神堂有、 昔源義経勧請之由、 左之方昔白川

二所之関見ゆる、

(朱書) 藤沢宗宅

二十軒程

※下端 (塚)、下端小坂上り、 坂の上ハ関東明神、 下は奥州明神也 宿中右 社 扨同所

ニ而御先払二人出

北方 南方 + 野州羽黒領 奥州白川!

領

関東明神 玉津島大明神

光州明神 住吉大明神

関東明神 の別当、 真言、 境内住居、

宝寿院正願寺

奥州明神別当、

天台、

境内住居、

和光山法正寺

迄八丁有、七丁右愛宕堂、 人増 御上下之節両者へ御参詣被遊候、 藤川宗沢方へ被為入、 (朱書)「同所茶屋餅名物也、」 此所より御先払二 右方大仏有、 此の間白坂 御小

山中村 十軒程

羽黒領、 、左右山

大久保田 匹 · 五軒程

羽黒領、 上端小川、 土橋有、

寄居村 六十軒程

一丁下 (塚)、 宿中右養東寺、 真言、 左之方

名物の膏薬店有、

脇沢村 五・六軒程

、高瀬村 三十軒程

宿中右八幡宮、 神明宮、左之方寺有、

板屋村 蟹沢村 五十軒程 十五・六軒程

丁下(塚)、上端小川、瀬越、 又ハ仮橋也、

羽黒領也

峰岸村

軒

程

丁下 (塚)

北方 (サ 羽黒領

南方

芦

野領

柳有、 橋向右之方鏡山と云、 西行法師か歌 Щ の が麓に清-:水有、 遊行

道の辺の清水流るよ柳陰

しばしとてこそ立留りけ

一、芦野(朱書)臼井丹右衛門 、足軽町 十軒程

一百軒程

越堀迄三里、

本 百十八文

力 七十六文

五十九文

石、 同所交代寄合芦野中務様御在所、 ル、御小簾、御先払両人、御駕籠脇より挨拶 上端町中芦野川 有 御通之節御馳走人出 高三千十六

右之方寺一宇有、 左右茶屋多し、

黒川新田

十四四

五軒

下端川 有 左右境杭、 女夫石有、

東方 西方 y 橋 羽黒領堺黒川ト云、 有 Щ 中ヨリ芦野 堺

女夫石村 匹 五軒程

芦野領なり、

黒 川^Ҿ

新田

应

乎、 上端川 有 左之方堺杭有 黒川か黒野か誤り

蛇沢村 七・八軒

此間山越也

、石田坂村 七・八軒

寺郷村 五十軒程

上端 (塚)、 同 .所羽黒領也、 下端坂、 下笹川

と云川、 橋有、

杉渡村 十軒程

同所より芦野への間二十三坂といふ、赤坂也

(朱書) 藤田平兵衛 寺郷の間山越、 下端右之方日光山見ゆる、

越堀 百軒程

太田原迄三里十丁、

力 本 百二十二文 七十六文

五十九文

同所下総国羽黒領大関伊予守様御領地、『野園盟朝、以下同》

万八千石の内なり、 御 通の節御馳走人出ル、

此間山越、 上十五日馬継也 御小簾、

御先払挨拶、

宿中右寺有

下端より

東方 羽黒領

御代官領

境川中也 (舟)、 渡、 水無時 瀬 越、

上殺生石有。

(朱書) 木口助之丞

八十軒程

※下十五日馬継也、 御小簾、 御先払、 同所御代官領、御手代出ル、 御駕籠脇より挨拶、 下端小

※(朱書)「太田原迄三里、坂下右之方辻番所有、 (朱書) 「太田原迄三里、」 東方 (サ)、 羽黒領

下樋沢村 二十軒程

二丁下 (塚)、 羽黒領一丁下左堺杭

、上樋沢村 二十軒程

羽黒領也、 此間 一丁隔、

、沼田村 八・九軒程

羽黒領、 下端左方水戸道有、 羽黒領 一万八千

石内也

鎌取坂村 Ξ. ·四軒程

羽黒領、 右之方片側家也、 左之方松原也

東方 (サ)、 羽黒領、 堺杭より一丁下鎌取坂

赤坂有、

、久保村

同 · 所御代官領也、 南方) 御代官領

練貫村 (朱書) 又六・七軒程

宿中 下端左愛宕堂、夫より下左方堺杭 (塚)、 同所御代官領也、 宿中右那須道 本有、

本市野坂村

三十軒程

仮橋 下端右法続寺、

真言、

中市野沢村 三十軒 程

下端小川、 橋 有 此間少隔

、上市野沢村 三十軒程

下端小川 橋有、

発込村 三十軒

同所御代官領と太田原領の堺、一丁下右方堺

杭あり、 ※北方 **(サ)**、御代官領 ※ (朱書)「小滝村と云有、四十軒程、

深田村 三十軒程

太田原領也、下端棚倉への道有、右十王堂有

上の坊村 二十軒程

左男松なり、 一丁下(塚)、 五十間下ニ松二本有、 右 女松、

、上の台村 六・七軒程

益子政之助

右之方那須の嵩、

高原山見ゆる、

一、太田原(朱書)戸南十郎左衛門、

六丁下 **(塚)**、佐久山迄二里、 イニー里廿八丁

本 六十八文

四十六文

三十四文

野州那須郡江戸より三十七里十八丁、 御駕籠脇より挨拶、 田原飛騨守様御城下、 節御馳. 走 人出ル、御小簾、 一丁下鏡川といふ川有、 高一 万千四百石、 御先払二人出ル、 同所太 御通

天台、 瀬越、 駕籠脇より御挨拶 但町中右方御城御門見ゆる、 之方山の上ニ雷電堂有、 正法寺、 水無時ハ仮橋、右方薬師堂、 法花、 町中愛宕堂有、 一丁下※錆川なり、 御番人下座、 同吉祥院、 御

一、中居村 (朱書)「イニ米沢村、 九十軒程 九十軒、 中井村ノ前ニ有、」

御代官領也、 山見ゆる、 下端境川といふ小川、 那須ヶ嵩見ゆる、 楊枝山、 橋あり、

高原 橋

北方 # 御代官領 太田原領 向に、

道有、 堺杭より一 里塚迄六丁、 塚より五丁上日光山

米沢村 六十軒程

吉沢村 二十軒程 同所御代官領也

(塚)、佐久山領也、

南方 佐久山領

、三軒茶屋 佐久山領也、 下端伯耆川 七・八軒程 瀬越、 又ハ仮橋な

り、下端観音堂有、

、 佐久山 (朱書) 井上勘左衛門 三百軒程

喜連川迄二里廿丁、

本 百廿文

力 七十二文

夫 五十二文

山道有、 見ゆる、 払二人出ル、 同所交代寄合福原内匠様御在所、 内、 御通之節御馳走人出ル、 同下小坂有、 御番人下座、 御駕籠脇より挨拶、 挨拶同 断 御 三千五百石 小簾、 町中左御門 下端左日光 御先

前坂新田 十軒程

高橋村 八・九軒程

若林村 八・九軒程

、二里塚新田 十軒程

下端 (塚)、 此塚迄見当ニ而替る也、 古来ハ

疋田新田 六・七軒程 家の後也、

今の往還ハ新道也

押上村 五・六軒程

同所小茶屋有、 上端小川、 橋有、

中曽袮田 曽袮田村 五・六軒程

Ŧī.

十軒程

同 ?所佐久山領也

西南 東北 佐久山領 喜連川領

右境より三丁下塚なり

田 三十軒程

端より十一丁、 十六丁下 (塚)、 那須福原への道あり、 半丁下羽黒江の追分有、 下

川原町 五十軒程

、足軽町 上端小坂有、 右之方日光道有、 二十軒程

下端喜連

Щ

一、喜連川 瀬越、 仮橋の時も有、 上野多右衛門 三百軒程 此川北ノ方那須郡

町中 (塚)、氏家迄二里、

本 八十五文

カ 五十四文

夫

四十二文

念寺、 の由、 座候得者御駕籠脇より挨拶、 侯の在所羽黒江五里、 左兵衛督様御在所、 同所より大久保侯の城下鳥山へ一里半、 方山の上御城有、 江戸より三十三里、同所下野国塩谷郡喜連川 浄土、 町中東光寺、 同所鮎のすし・竹火縄名物也、 追手御門見ゆる、 浄土、 五千石程有之、 龍蔵寺、 源頼朝狩場の跡 法花、泉 町中左之 御番人下 大関

三十軒程

Ш の 同所喜連川新田共云、 道有、 下常州へ落る也 洪水ニ而橋落る時ハ往来留るなり、 下端右の方常州下妻へ

羽黒村

十五・六軒程

坂有、是より上り所・小坂有、坂出村共云、喜連川領也、上端寺有、村中小

有中 **、家**、 司所下 总拉及、松山新田 百軒程

丁下右之方堺杭二本有、宿中(塚)、同所下総佐倉領也、下端より六

西南
佐倉領

東北喜連川領

岩堂、山の上ニ有、岩堂、山の上ニ有、お本で、山の上ニ有、お本で、中の右之方山中に矢黒十は、坂中の右上十は、坂中の

、桜野 百軒程

下端より新田迄八丁あり、御通の節御先払出有、鳥山への道有、此近郷塩谷の里といふ由、領地、四万石の内、宿中左右御仮屋、御印蔵野州塩谷郡の内下総佐倉領、堀田相模守様御

る、御駕籠脇より挨拶、

 、氏家
 百軒程

 (朱書) 平石六右衛門
 七・八軒程

上端 (塚)、白沢迄一里 (朱書) 又半、

本 八十三文

カ 五十四文

夫 四十二文

の節御先払出ル事も有、下端堺川と云ふ小川、同所戸田 様御領地、七万石之内、御通

東北 , 佐倉領橋有、下左之方堺杭二本有

西南 宇都宮領

両堺也、堺下茶や有、

宿中右之方城跡有、氏家内膳住居之内、堂原新田 七・八軒程

、阿久津村 七十軒程

同所野州塩谷郡宇都宮領也、阿久津川有、左

本 九十二文

宇都宮迄二里半、

カ 六十一文

7---

四十七文

宮より川綱出候得ハ、 御駕籠脇より挨拶、 御馳走人出ル時有、 同所野州河内郡戸田 より五丁下絹川 (舟) 下端九丁半土橋〇有、 御小簾、 御小簾、 舟渡、 様御領、 御先払出候得 右之方常州筑 右両川へ宇都 御通の節 是

五丁半下

(塚)、

右之方日光山,

浅間嵩見ゆる

雀宮

八十軒程

台新田

七十軒程

波山見ゆる也、

、街道新田 三十軒印

三丁下 (塚)、

(朱書) 石塚次郎兵衛 八・九軒程一、竹林村

本

宇都宮

雀宮迄二里一丁

力

夫 四十文

伝馬丁 石、 人下座、 領也、 駕籠脇より挨拶、 樣御城下、七百七千八百五十石、 御馳走人出ル、 ハ参詣致せ候也、 之方正一位勲六等日光大明神堂有、 本陣より一丁下左之方御城御門見ゆる、 目此所ニ而改る、 別当天皇寺、 寺三宇有、 旅人の参詣を禁、 御手代二人出ル、 (塚)、 挨拶、 同所下野国河内郡戸 御小簾、 町中田川の大橋有 町中玉川といふ、土橋有、 天台、 伝馬丁ハ日光社地ニ而御代 (宮殿以下同) (宮殿以下同) 町中右不動堂、 城中見通候故也、 是則宇都宮 貫目御改役出 御先払両人出ル、 夫より大仏 御 神領五千 田 一社明神 通 Щ 御 の節 御 右 御 番

(貼紙抹消)

(塚)、上石橋迄 里半、

六十五文

四十三文 三十二文

御小簾、 て富士山と筑波山見ゆる、 下左之方正一位雀宮大明神 野州河内郡御代官領、 御先払出候得ハ挨拶、 御通之節御手代出ル、 此 宿中左寺有、 所より南ニ当

北方 # 宇都宮領

御代官領

南方

、茂原村 四・五軒程

内 此所関宿久世大和守様御領也、 六万三千石の

「南方

※関宿領也

、古山新田 八十軒程

三丁下 (**塚**)、

(朱書) 伊沢八右衛門

百軒程

小金井迄一里半、

呼代領也、 管脱、以下同)

南方 y

鞘堂新田

七・八軒程

北方 関宿領

御代官領

※ (点羽)

北方 関宿領

御代官領

、下鞘堂新田 五・六軒程

一丁半上 (塚)、 蕷柄新田迄廿九丁

本 三十二文

力 二十二文

十六文

御朱印地也、 二人出ル、御駕籠脇挨拶、 野州都賀郡堀田備中守様御領地、 方連光寺、 御通之節御馳走人出ル、 真言、 山門ニ恐しき仁王有、 三里程西の方ニ壬生の城見 宿中慈眼寺、 御小簾、 十一万石之 夫より左 御先払 真言、

本

力

夫 廿九文

心庵あり、 先払出候得ハ、御駕籠脇より挨拶、下端左道 御代官領、 右之方分杭一本有、 下石橋 御通之節御手代出ル、 鷲の宮といふ有、大木槻之木有、 十四・五軒程 御小簾、

南方 佐倉領

北方 御代領

、二軒新田

四軒

程

下 (塚)、 佐倉領也

十二・三軒程

笹村

下総佐倉領也、

(朱書) 大越忠右衛門

百軒程

小金井

ゆる、 壬生ハ鳥井丹波守様御城下也、

> 南方 # 御代領

北方 鳥井丹波守領 壬 生領

右両堺也、 南方 是より五丁程下右方分杭 壬生領 本有、

大町新田 北方 サ 佐倉領 Ŧī.

一、蕷柄新田 下端右之方両堺分杭 六軒

(塚)、小山迄一里、 (朱書) 又十一丁 六十軒程

下端

三十二文

本

力 二十二文

夫 十六文

而継也、 御代官領、御通の節御手代出ル、 上下之節此所ニ而馬継無之、 上端右之方行祥院、 真言、 小山と小金井ニ 御小簾、 一字有、 御

以魚を焼ゆへ、 祭る、 、喜沢新田 之方八色の沼あり、 御代官領、 きりはるる室の 昔此所ニ福神遊、 此辺室の八島といふ、 歌人ハ是を取て古語とす、 池の内ニ八島有、 八嶋の秋風に 六・七軒程 庭の池の辺ニ而薪を 五丁程下右 八神を

掌中 残りてたつは煙なりけ 野集」

烟かと室の八嶋を見し程 今見れハ室の八嶋もあわれなり やかても空の霞ぬるかな

北方 遠山知知 御代官領 行所

喜沢村

五十軒程

烟りに遠き老の身なれハ

二十軒程

一、下町

遠山知行所なり、

、小山(朱書) 小河彦右衛門 (朱書) 又五百軒 四百軒程

町 中 (**塚)**、侭田 [迄下同] 里二十四丁、

本 六十五文

四十三文 三十二文

真言、 山門、 下野国都賀郡宇都宮領也、宿中右天王堂社有 別当なり、夫より下右之方光源寺、 仁王門有、 当所鎮守の由、 右天王院、 真

方ニ古城の跡有、 同右之方結城道有、 昔此所の城主下野大掾小山 追分也、右之方後の

住ける由、 判官藤原政光と云人住居の城跡也、 俵藤太秀郷の末葉にて、 草木とへとも取事ならす、 藤原氏小山小四郎頼 大なる蛇 政光ハ

井迄通候也 南方 御代官領

光の子也、

御上下の節新田

へ馬継無し、

小金

#

得

ハ御小簾、

御先払出候へハ御駕籠脇より挨

上端左右沼有、

宿中新正寺、

左之方愛宕

左に小観音堂有、

下端左右地蔵、

北方 遠山知行所

小山茶屋町 二十軒程

宿中左右 (塚)、

南方

北方 御代官領

此所下総下野の両堺也

、二日市新田

、乙女村

十軒程

北方 南方

関宿領

U

御代官領

下総国結城領也、 水野日向守様御領地、

八千石の内也

二丁下 (塚)、下総国関宿領也、 久世大和守

様御領、 六万三千石の内也

#

南方

関宿領

一、 侭田 (朱書) 青木勇助 北方 結城領

百軒程

野木迄一里半、

本

六十八文

力 四十六文

三十四文

戸 $\stackrel{'}{\boxplus}$ Ш 城守様御領地、 御通の節御馳走人出候

結城領

右方分杭有、

是より南の方御代官所

同右之

方分杭有、

北之方関宿領

四・五五 軒程

結城領、 此間並木松也

栗の木新田 三·四軒程

栗野木宮村 七・八 八軒程

万

、千田塚村 八· 九軒程

上端

(塚)、

御代官領、

上端左雷電堂、

右地蔵堂、

同八幡社有、

鹿沼への追分有、

勘沢村

十軒程

幡社小観堂有、 御代官領也、

道明寺、

浄土、

下端右日光

村中左仙光寺、

真言、左之方八

友沼村 五十軒程

真言、左八幡宮有、宿中左之方分杭壱本有 御代官領也、 上端宝光院、 真言、 右報恩寺

北方 (+ 御代官領

松原新田 三十軒程

南方

古河領

古河領也

一、野木 (朱書) 熊倉七郎右衛門

一百軒程

(塚)、古河迄二十九丁、

廿九文

+ 九文

十 应文

一、古河(朱書) 吉沢与一 堂有、 朝政御領候所なり 石の鳥井有、 古河之領也、一丁上端正一位野木大明神堂有 正明寺、 宿中右之方万願寺、 浄土、 -端左観音堂有、 真言、 雷電 小

三丁下

(塚)、※栗橋迄一里半、

六十一文 * (朱書) 「中田迄一里四丁、」

四十一文

夫

御先払二人出 御城下也、 江戸より十一里、 三十一文 御通之節御馳走人出 ル 御駕籠脇より挨拶、 下総国葛飾郡土井大炊頭 御小簾、 町 中

挨拶、 参り葬埋たる由、 御城御門見ゆる、 猪の早太、 尤下座大体なし、 田、城なかに怨り事有時は頼政 ^(変カ) 昔源三位頼政之首を此処へ持 御番人下座、 此城内頼政堂とい 御駕籠脇より Š

此堂を守るといふ、 堂夥敷鳴動告候由、 下端町中右方弘法の御廟 早太ヶ子孫今ニ相続して

左方正恩寺、 への道有、 地蔵堂有、 下端右之方神明宮、 禅、夫より下左方長久山本城寺 村隠土手並木松原也、 尊寿院、 真言、

総と下

・野との堺ハ二十丁程北、

利根川を以堺

とす、

新田 茶屋 Ŧi. 軒

内沼有、 古河領、 よし 芦穂 Щ 下端常州筑波山下に山見ゆる、 昔 低きハ 小山判官放せし · 築[▽] 波山 也、 鷺 一羽此沼辺 左之方野 高き 原之 に 住

(朱書) 中田村の藤田源右衛門

八十軒程

下端 人出ル、 人出ル、 栗橋御関 土井様御召船御借被成候得 渡御見合有之事有、 墓成由云伝ふ、御本陣へ被為入、栗橋川、 香取明神堂、 り挨拶、 نجر 境内三言の宮とて小社有、 (塚)、葛飾郡古河領 源 古河迄並木松也、 御小簾、 御小簾、 ハ上野より来ル、 所川向に有、 一ノ宮ニ有之、 御先払出候得ハ御駕籠脇よ 此川関東 栗橋川 宿中左之方八幡宮、 坂東太郎共いふ也 舟(左右玄了寺、 御通之節 川綱、 是則静御 大川利根川 △大舟渡、 御馳走 御 馳走 . 前 舟 真 0

、栗橋、田与四右衛門

一百軒程

幸手迄二里、

本

八十文

力 五十三文

夫 四 十文

> 端右之方なり、 通事不相成、 座 御支配 何れも御小簾 旅人笠をぬきて通也、 所、 御通之節御手代出ル、 公儀御関 御関所少過 所 也、

.処二百石斗の船ありて、

江

戸往·

来ス、

同 手

女ハ切

御番

所川

御番人手

御番人

弁当、 候 附之者下座、 有 御関所下利根川舟渡之節、 御刀筒、 御床几へ心付、 御駕籠脇 御長刀、 より 御手鑓を乗セ可 御たはこ包 挨拶、 御舟に被為召 宿中寺三宇 御茶、 申

川通村 此処小左衛門村 二十軒程

、 (そとごうま) 弁天社有、当 村中 丁上水道路とい (塚)、 堂前ニ大槻ノ木有、 ・ふ川有、 十軒程 大橋有、 村とも 是則塚也 上端右大 Š,

丁下右杭 南方 本有 民部卿料

権現の堂有、

此

所民部様御

賄

料

この内也、

北方 + 御代官支配

是より土手通なり

高須賀村 二十軒程

此所民部卿様御 長漸村 有 Š 鴨川塘とい 端 八幡社 .賄料十万石の 3 軒 程 大橋有 内 此橋出羽橋共

内国府間(うちごうま) 五十軒 程

宿中曽根正福寺とい ؠؘ؞ 真言、 上端茶屋有、

(朱書) 知久文左衛門

一百軒程

下端(塚)、杉戸迄一里廿五丁、

本 八十文

五十三文

力

三十文

御代官領、御通之節御手代出ル、 先払出候得ハ、 御駕籠脇より挨拶、 御小簾、 宿中寺 御

宇あり、 内国府間の間家続也

本多賀野村 上端右之方岩附道有、 三十軒程

福島村ともいふ、 幸手

の間右利根川、 大橋、 是村境也、 宿中寺三字

有、 薬師堂有

多賀野村 十軒程

※ (点羽) ※此所菩薩村共云、 左雷電堂有、

、和田村、上多賀野村 十軒 六・七軒程

大島村共云、 又天神島と云、

半丁下左右小森ニツ、

小屋堀

八・九軒程

、九軒茶屋

五軒程

(朱書) 長瀬清兵衛

一百軒程

粕壁迄一里廿五丁、

六十一文

力 四十一文

夫 三十一文

御通の節御手代出ル、 御小簾、 御先払出候時

御駕籠脇より挨拶、宿中左神明堂、法正院

真言、 下端弁天、右利根川、 大橋有

宿中右香取明神社有

勢伊地村

十八・九軒程

三本木村

十八・九軒程

上端 (塚)、

、蔵下村

十軒程

、堤根村 二十七軒程

御代官所、 下端左寺一宇有、

十八・九軒程

、本郷村

小渕村

十七・ 八軒程

上端 宿中左観音堂、 別当山伏

、 粕壁 (朱書) 猪川安右衛門 (朱書) 又三、四 二百軒程

、新町

十八・九軒程

越谷迄二里廿丁、

百六文

力 六十七文

夫 五十七文

> 左方ニ八幡宮、 右利根川 大橋有、 右方寺、 左右寺二宇有、下端

御駕籠脇より挨拶、

上端右方富士山見ゆる、

御通之節御手代出ル、

御小簾、

御先払出ル、

油子村 四十軒

程

、上備後 宿中 (塚)、 新宿屋共いる、 四十軒程

右雷電堂有

、下備後 十四・五軒

大篠村

七・八軒程

左薬師堂有、

、木枝村 九軒程

宿中右富士浅間大観行院、 真言、

、下間久里 二十四・五軒

此所鰻の蒲焼名物、 右方古沼有、 上端観音堂有、 茶屋有、 下左方八幡宮、

二十軒程

、上間久里

一、大里村

下端 (塚)

二十軒程

宿中寺あり、

、大林村 二十軒程

宿中左薬師堂有、 大沢村 寺一宇有 一百軒程

上端宿中左右小辻、 是則 **(塚)**、 此処惣名越

川より下端迄九丁有、 谷と云ハ違也、 之方一宇有、 左天神堂、 当所と日代り馬継也、 上端左之方寺 右鹿島堂有 宇、 上 端荒 右

(朱書) 真田八右衛門 越谷

一百軒程

草下迄二十八丁、 本 六十七文

三十七文 四十七文

二人出ル、 御代官領、 御駕籠脇より挨拶、 御手代二人出ル、 御小簾、 重光院と云山 御先払

向之節、 伏出ル、 荒川と云、 御機嫌伺ニ罷出ル、 江戸より 橋有、 ,伺御機嫌御使者同所へ出 入口より此所迄九丁、 左方寺有、 御下 下端

尾曽袮田 村 十軒程

也

越谷の入口 也

蒲生片町 十二・三軒

側村也、 金右衛門新田共云、 惣名蒲生片町といふ也 九左衛門新田共云、 此所

金左衛門新田

宿中左、 同所左綾瀬川 横 の Ш 有 此間蒲生

川と云、 土 橋有、

女村とも云、 九左衛門新田 下端綾瀬川の橋有 拾五 六軒程

> 四軒茶屋 兀 Б. 軒程

朱書)清水理兵衛 草下

一百軒程

千住迄二里

本

八十四文

力 五十六文

夫 四十二文

右方寺二宇有、 御上下之節御手代出ル、 御駕籠脇より挨拶、 下端大神明 御小簾、 上端右小社、 地蔵堂有 御先払出候 宿 中

瀬崎村 三十軒程

下端 (塚)、

宿中小川、 橋有、 水神沼力 有 名水なり、

瀬崎茶屋 五・六軒程

久保木間 村 二十軒程

此所右方梅木の和中散売家有

島根村 四十軒程

宿中 此村三切ニ成て有也、 (塚)、此所竹塚村共云、 左の方寺 宇

有、

梅田村 八軒程

不動堂有、 別当谷宗明王院なり、

、千住、千住 五百軒程

※御通之節御手代出ル、 水戸道有、 者御駕籠脇より挨拶、 茶屋多し、 右不動堂、 御小簾、 宿中右伝馬役所有、 御先払出候得 別当長仙寺

> り御道書伺、 浄土、 御供ハ江戸表之通、 り小菅の御殿迄七丁有、 0 節、 御 与一様御使者出ル、津軽屋三右衛門出ル、 徒参、 千住 江戸より御徒頭 御本陣前ニ 一丁目より七丁目迄有、 并御老中様御願書差上申候 江戸より御迎の御徒頭よ 一罷出、 御小性・抱御中小性 下端八幡宮、 其外上、様御使 水戸道よ 御登り

* (朱書) 「本所二ツ目迄二里、」

掃部宿 二百軒程

下端 塚の下ニ小橋有、 (塚)、下端左之方梅若への土手道 即千住 一丁目小橋也、 有

川原

此所シチ 商 人居也、 左右田 地

橋戸村 七 軒程

小塚原 六十軒程

宿中右ニ金杭の追分道有、 十六間の大※橋有、 -端荒川、 と云、 六

「 (点羽)

浅草町

山谷町二丁目

之方公義御仕置場 院持分也 右之方弁天堂有、 此間大橋有、 下端所、石橋有、 有、 右之方道心庵有、 田 別と云、 夫より右 回 向

山谷町

右之方神明堂有

新鳥越町四丁目・三丁目

一、同二町 目 右寺一宇有、

右寺一宇有、

同一丁目

手通、 出口江橋と云有、 左之方小野への追分道有、 今ハ山谷橋と云、 右之方土

聖天町

右之方聖天の宮有、 金龍山といる、 別当本龍

院、天台宗ニ而、 浅草寺の末寺也

花川戸

右之方浅草の観音の山林有、

山の宿

右之方六地蔵有、 則 里塚、

大川橋

ニ而候由、 此橋安永年中懸る也、 而有之由、 其頃迄年々御通行は浅草通両国橋 橋無き時ハ竹町

竹町

大川端

門前ニ身代地蔵と云石の古仏有り ゆる、左ニ多田薬師之堂有、別当玉島来江寺 川向二浅草御蔵并駒形堂、 金龍山等一円に見

石原町 埋堀町

> 右方鎮護山碩運寺、 禅宗有、

御竹蔵裏通

、亀沢町

本所二ツ目

西葛飾郡之内也、

【参考文献】

- 「御登御道中記」 家文書、 請求番号二二B・3353・1) (国文学研究資料館 津軽
- 「江戸より御国迄行程記」 津軽家文書、請求番号22B01898 (国文学研究資料
- 『松前町史 通説編 第一巻上』一九八八、

松前町史編纂室

- 出版会) 「柳堂補任 日本近世資料 [7] 1』一九六三、東京大学 一」(東京大学史料編纂所編『大
- 弘前大学国文学研究会編 七七、名著出版 "津軽史辞典』 一九

佐藤 太田原慶子 〒03-0802 青森市本町二丁目8-14 良宣 青森県立郷土館 同同 学芸主幹 学芸主幹 学芸主幹

本田 ₹ 030 0951 伸 青森市大字戸山字赤坂7-1 青森県立青森商業高等学校教諭

青森県立郷土館研究紀要 第46号

【新収蔵資料紹介】	
「奥州通道中記」	
正誤表	

伏拝の坂上 迄	伏拝の坂上まで	5・上段・14行目	1 <u>5</u> 2 頁
是より北の方会津の	是より北之方会津の	4・上段・2行目	1 <u>5</u> 2 頁
△船渡、川綱、(空白を詰める)	△船渡、 川綱、	4・上段・6行目	1 <u>5</u> 8 頁
天神堂有、(空白を詰める)	天神堂 有、	兵・上段・5行目	1 <u>5</u> 8 頁
阿弥陀堂あり、	阿弥陀堂有、	・中段・ 24~ 25 行目	1 <u>6</u> 0 頁
(抹消)	* *	·中段·16行目	1 <u>6</u> 1 頁
一、十日町 二十軒程、下端神明社有、	(この行の後ろに挿入)	・中段・25行目	1 <u>6</u> 1 頁
···下端赤坂三 つ 有、···	… 下端赤坂三ツ有、 …	g・下段・20行目	1 <u>6</u> 2 頁
十一丁上中川原内(塚)、※六郷迄 …	※十一丁上中川原内(塚)、六郷迄 …	5・下段・13行目	163
… 八幡社有、 金 蔵院、真言、 …	… 八幡社有、蔵院、真言、 …	g·下段·7行目	163
(朱書)四•五軒	(朱書) 又四十軒	・中段・1行目	1 <u>6</u> 5 頁
本 四十三文	本 四十文	・中段・22行目	1 <u>6</u> 6 頁
一、土手町 (「 下 」を抹消)	一、下土手町	5・下段・19行目	170
一、 下 土手町	一、土手町	兵・下段・18行目	170
正	船	・段・行	頁・

· 上 · </th <th>一、埋堀町 一、地堀町 一、和田村 六・七軒程 一、和田村 六・七軒程</th> <th>下端さり川 下、和田村 下・七軒程 (3字上げる)</th>	一、埋堀町 一、地堀町 一、和田村 六・七軒程 一、和田村 六・七軒程	下端さり川 下、和田村 下・七軒程 (3字上げる)
52 頁・段・3 了目	卸頂地	卸 項 也
・上段・22行目	下端左り川	下端さり川
・下段	夫	
・中段・	右両境杭、	右両堺杭、
・上段・	宝暦十二年午年夏の勧進の由といふ、	宝暦十二年午年夏の勧請の由といふ、
・中段・	御上下之節両者へ御参詣被遊候、	上下之節両社へ御参詣被
・上段・	野州河内郡御代官領、	州河内郡御代領、
下段・	御代官領、	
・上段・10~	宿中寺三宇あり、	宿中寺三宇 有、
・上段・	和田村	和田村 六・七軒程 (
· 上 段	· \	- ^ (
	一、埋堀町	一、 ※外手町